

LVS-95□□シリーズ

付録G：特殊機能

おことわり

- 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で複写複製転載することを禁じます。
- 本マニュアルの内容に関しては改良のため予告なしに仕様などを変更することがあります。あらかじめご了承ください。
- 本マニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お手数ですが、弊社支店または営業所までご連絡ください。その際、巻末記載の**Man.No.**（マニュアルNo.）も併せてお知らせください。

商標

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Excel、Visual Basicは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- EtherCAT® は、ドイツBeckhoff Automation GmbHによりライセンスされた特許取得済み技術であり登録商標です。
- ODVA、CIP、CompoNet、DeviceNet、EtherNet/IPはODVAの商標です。
- QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

その他、本文中に掲載している会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

著作権

スクリーンショットはマイクロソフトの許諾を得て使用しています。

目次

マルチセクタバーコードの検証	5
マルチセクタバーコード検証の有効化	6
マルチセクタバーコードテンプレートのセットアップ	7
マルチセクタバーコード検証手順	10
その他の機能	11
既存フォーマットテンプレートの変更（編集）	11
単一セクタ検証レポートの印刷	11
マルチセクタ検証レポートの印刷	11
検証レポートの1カラムフォーマットへの変更	12
検証レポートの署名行の変更	15
署名行のフォーマットの例	17
署名行が1行の場合	17
署名行が2行の場合（デフォルトのフォーマット）	17
署名行が3行の場合	18
署名行なしの場合	18
検証レポートに含まれているコードの構造分析の追加または削除	19
IncludePrintStructure	19
SeparateDecodedText	21
IncludePrintStructureとSeparateDecodedTextの例	22
IncludePrintStructure=1またはIncludePrintStructure=0（デフォルト）	22
IncludePrintStructure=2	23
IncludePrintStructure=3	24
IncludePrintStructure=3およびSeparateDecodedText=1	25
CommPort設定の変更	26
自動ログイン	27
自動ログインの有効化	27
手順1: セキュリティシリアル番号を確認する	27
手順2: 自動ログインを有効にする	28
手順3: オペレーターとして“Automatic”を設定する	29
自動ログインの無効化	31
自動ログインのバイパス	31
カスタムレポート	32

リファレンスレポートに出力するパラメータの変更.....	37
セクタIDが“All”のものを除いてエクスポート	39
Windows® ロックダウン	40
システムをシャットダウンする	42
Windows® ロックダウンを解除する	43
アカウントパスワードのリセット	44
アプリケーション規格のショートカットキー	44
アプリケーション規格用定義済みショートカットキーの表示	45
アプリケーション規格用ショートカットキーの割り当てまたは再割り当て	46
2Dマトリックス型シンボル用のDecimal Grading	49
ISO/IEC 15416:2016ベースのDecimal Grading（デフォルト）	49
LVSレガシーDecimal Grading	49
Strict 15415 Integer Grading（厳密な15415グレード評価）	50
グレード評価方法の比較	50
2DマトリックスシンボルGPAグレードの計算方法の選択	51
2Dマトリックスグレード評価方法の選択	51
Active Directory	53
Active Directoryの有効化とオペレーター権限の管理	55
検証レポートの画像サイズ	63
検証レポートの画像サイズ変更方法	64

マルチセクタバーコードの検証

出荷ラベルやブリストパックなど、アプリケーション固有のラベルの多くは、複数のバーコードシンボルが印刷されています。LVS-95□□ソフトウェアには、視野内にある複数のバーコードシンボルを同時に検証できる特殊機能があります（別売）。マルチバーコード検証機能を使用する際には、すべてのバーコードシンボル体系を、同じアプリケーション規格を使用するものにすることを強くお勧めしますが、同じラベル上にGS-1準拠のバーコードとISO準拠のバーコードを混在させる必要がある場合は、[セットアップ] タブで[Automatic GS1 or ISO]アプリケーションを選択するようお勧めします。図1は、シンボル体系の異なる複数のバーコードシンボルが含まれたラベルの例を示し（セクタ#3および#4は1次元シンボルで、セクタ#1および#2は2次元シンボル）、マルチセクタ検証が有効になっています。

マルチバーコード検証は工程管理ツールとしてのみ使用するものであり、主たるバーコード検証機能として使用するものではありません。

マルチバーコード検証はLVS-95□□の標準機能ではなく、別売となっています。価格の詳細については、当社または販売代理店までお問い合わせください。



図1: シンボル体系の異なる複数のバーコードシンボルが含まれたラベル

マルチセクタバーコード検証の有効化

LVS-95□□システムでマルチセクタバーコード検証機能を有効化するには、以下の手順に従います。

なお、有効化するには当社または販売代理店から受領した8桁のコードが必要です。

1. LVS-95□□にログオンし、[セットアップ]タブをクリックします。
2. [オプション機能]セクション内で、[オプション機能の変更・追加]ボタン（図2）をクリックします。

LVS-95□□の機能リストが表示されます（図3）。

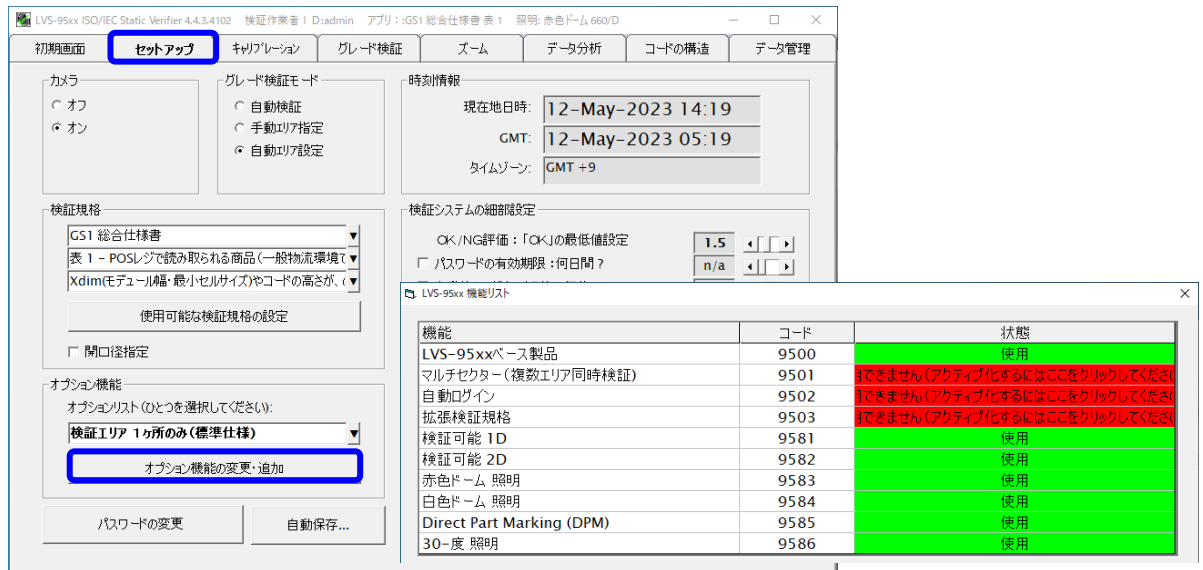


図2: [オプション機能の変更・追加]ボタン、図3: LVS-95□□の機能リスト

3. [マルチセクター（複数エリア同時検証）]の横にある[使用できません(アクティブ化するにはここをクリックしてください)]をクリックします。[アクティベーションコードを入力してください]ウィンドウが表示されます（図4）。当社または販売代理店から受領した8桁のアクティベーションコードを入力し、[OK]をクリックします。

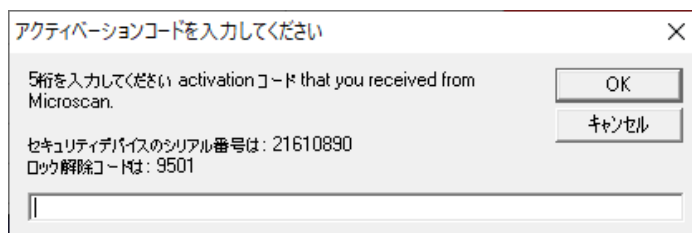


図4: [アクティベーションコードを入力してください] ウィンドウ

4. これでマルチバーコード検証機能が有効になります（図5）。

機能	コード	状態
LVS-95xxベース製品	9500	使用
マルチセクター（複数エリア同時検証）	9501	使用
自動ログイン	9502	使用できません（アクティブ化するにはここをクリックしてください）
拡張検証規格	9503	使用できません（アクティブ化するにはここをクリックしてください）
検証可能 1D	9581	使用
検証可能 2D	9582	使用
赤色ドーム 照明	9583	使用
白色ドーム 照明	9584	使用
Direct Part Marking (DPM)	9585	使用
30度 照明	9586	使用

図5: ステータスが“使用”で、マルチバーコード検証が有効であることを示しています

マルチセクタバーコードテンプレートのセットアップ

マルチセクタ検証の初回使用時には、リファレンステンプレートを作成して保存する必要があります。リファレンステンプレートには複数のグレード評価セクタが含まれており、セクタの位置は、視野内にラベルを配置したときにラベル上のバーコードの位置と一致します。テンプレートを使用すると、ラベルを視野内に配置するたびにセクタを描画／再描画する必要がなくなります。リファレンステンプレートは、ユーザが指定した名前で自動的に保存されるため、意味のある（生産工程に対応しているなど）リファレンス名を選択する必要があります。後日の生産工程では、マルチセクタ検証機能を使用する際に、[既存のフォーマットを選択] オプションを選択するだけでリファレンステンプレートを使用できます。マルチバーコードシンボルを検証するには、以下の手順に従います。

5. LVS-95□□にログインします。
6. [セットアップ] タブをクリックし、[オプション機能] セクションで [複数検証エリアを同時検証(オプション)] を選択します（図6）。

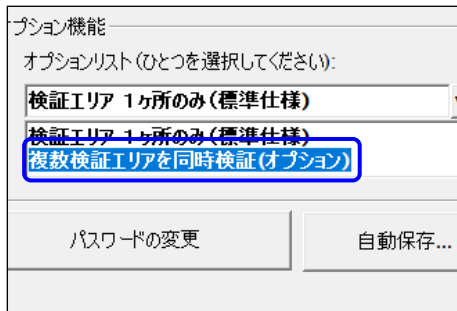


図6: [複数検証エリアを同時検証(オプション)]

7. [新規フォーマットの作成] または [既存のフォーマットを選択] を選択し、[OK]をクリックします（図7）。

マルチセクタ検証の初回実行時には、デフォルトのテンプレートが存在しないため、[新規フォーマットの作成] を選択します。

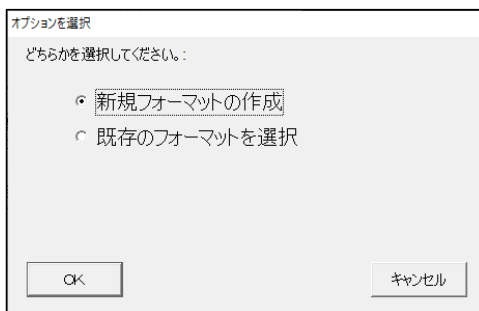


図7: 上記オプションのいずれかを選択

8. 「新規フォーマットの作成」を選択した場合は、新規フォーマットの名前をテキストフィールドに入力して[OK]をクリックします（図8）。「既存のフォーマットを選択」を選択する場合は、手順4と手順5を省略します。

図8: 新規フォーマットの名前を入力

- A. ラベル上のバーコードシンボル体系に応じた適切なアプリケーション規格を選択して[Ok]をクリックし、「グレード検証」タブへ進んでセットアップを完了します（図9）。

図9: アプリケーション規格を選択

- B. マルチバーコードラベルを視野内に配置して、以下の手順に従います。
- セクタ#1を作成するには、いずれかのバーコードシンボルの周囲にボックスを描画します。このときに、クワイエットゾーンも含まれるように十分なスペースを確保します。ソフトウェアにより、セクタに対してID番号が自動的に割り当てられます。
 - セクタ#2を作成するには、キーボードの[Shift]キーを押したままで2つ目のバーコードシンボルの周囲にボックスを描画します。完了したら[Shift]キーを離します。ソフトウェアにより、この新規セクタに対して別のID番号が自動的に割り当てられます。
 - さらにセクタを作成するには、残りのバーコードシンボルに対して前の手順を繰り返します。
 - 「マルチセクタバーコード検証手順」の項へ進みます。

9. 上記の手順3で「既存のフォーマットを選択」を選択した場合は、ラベルのグレード評価を開始するか、選択したテンプレートを編集するか、選択したテンプレートを削除するかを選択できます（図10）。

- バーコードシンボルのグレード評価を開始するには、「スタート」を選択して本付録の「マルチセクタバーコード検証手順」の項へ進みます。このモードではセクタの変更はできません。
- 選択したテンプレートに変更を加えるには（セクタの追加、削除、または再描画）、「編集」を選択して本付録の「その他の機能」の「既存フォーマットテンプレートの変更（編集）」の項へ進みます。
- 選択したテンプレートを完全に削除するには、「削除」を選択します。

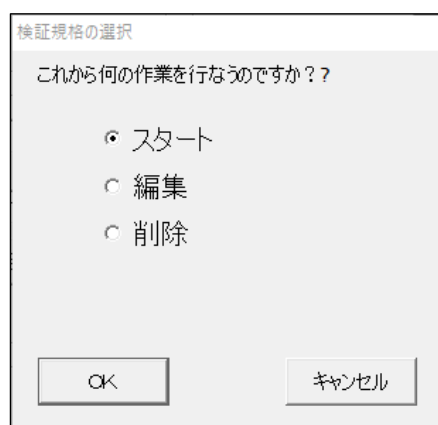


図10: 「スタート」、「編集」、または「削除」を選択

マルチセクタバーコード検証手順

1. [セットアップ] タブの [オプション機能] セクションで、[複数検証エリアを同時検証(オプション)] を選択します。
2. [既存のフォーマットを選択] を選択してテンプレートを選択し、[OK]をクリックします。
3. [スタート] を選択して、[OK]をクリックします。
4. 事前に設定したテンプレートと一致したラベルをガラス上に配置します。
5. すべてのバーコードシンボルが対応する設定済みセクタ内に収まるように、ラベルの位置を調整します。[自動] グレード評価モードを使用している場合は、ガラス上のラベルの移動が検出されなくなると、各セクタが順に検証されます。そうでない場合は[Click to grade]をクリックします。

注: 事前に設定したセクタの大きさが不十分でクワイエットゾーンが確保されない場合は、クワイエットゾーンのエラーが発生します。



図11: マルチセクタの表示

その他の機能

既存フォーマットテンプレートの変更（編集）

1. [セットアップ] タブの [オプション機能] セクションで、[複数検証エリアを同時検証(オプション)] を選択します。
2. [既存のフォーマットを選択] を選択して、テンプレートを選択します。
3. [編集] を選択します。
4. 変更するセクタの番号をクリックします。これにより、変更するセクタが選択されます。システムにより現在の既存セクタがすべて自動的に検証されるため、場合によってはやや時間がかかります。セクタのアウトラインが太線になるまで待ってください。
 - セクタを削除するには、キーボードの[Delete]キーを押します。
 - 必要に応じてセクタを再描画します。[Shift]キーを押したまま再描画しないでください。このようにすると、新しいセクタが追加されてセクタの順序が変更されます。
 - 新規セクタを追加するには、キーボードの[Shift]キーを押したまま次のバーコードシンボルの周囲にボックスを描画します。完了したら[Shift]キーを離します。ソフトウェアにより、この新規セクタに対して別のID番号が自動的に割り当てられます。

重要：[編集] モードで変更（追加、削除、再描画）できるのは、指定したテンプレートのセクタのみです。アプリケーション規格を変更することはできません。最初に選択したアプリケーション規格が正しくない場合は、テンプレートを削除してやり直してください。

単一セクタ検証レポートの印刷

単一セクタ検証レポートを作成するには、まず目的のセクタを強調表示します。セクタを強調表示するには（セクタを太線で表示するには）、そのセクタをクリックします。個々のパラメータのグレードが画面に表示されます。[印刷] をクリックし、単一セクタ検証レポートをデフォルトのプリンタへ送信します。

マルチセクタ検証レポートの印刷

全セクタのマルチセクタ検証レポートを作成するには、キーボードの[Shift]キーを押したまま [印刷] をクリックします。大量のデータが含まれている場合は、レポートの作成にやや時間がかかることがあります。

セクタごとの各パラメータのグレードを含むマルチセクタ検証レポートを作成することはできません。

検証レポートの1カラムフォーマットへの変更

LVS-95□□検証レポートのデフォルトのフォーマットは2カラムで、レターサイズまたはA4サイズの用紙に正しく収まりますが、幅3インチまたは4インチなどの幅が狭いプリンタを使用する場合でも、データが1カラムのフォーマットに表示されて正しく印刷されるように、検証レポートのレイアウトを変更することができます。指定先のプリンタには、Windows®互換ドライバが搭載されている必要があります。1カラムフォーマットのレポートを有効にするには、以下の手順に従います。

注意) 入力するコマンドは半角文字で入力してください。

1. LVS-95□□に「admin」としてログオンします。
2. 「データ管理」タブをクリックします。
3. 画面下部にある「クエリ」テキストボックスに、以下のコマンドを入力します。大文字と小文字は区別されません。

update settings set settingvalue = "1" where settingname = "singlecolumn"

クエリ: <input style="width: 80%;" type="text" value='update settings set settingvalue = "1" where settingname = "singlecolumn"'/>	実行ボタン
---	--------------------------------------

図12: 次のコマンドを入力: update settings set settingvalue = "1" where settingname = "singlecolumn"

4. 「実行ボタン」をクリックします。
 - 処理が正しく行われると、「操作は成功しました」にメッセージが表示されます（図13）。図15は、1カラムフォーマットで印刷した例です。
 - 処理が正しく行われなければ、「クエリエラー」にメッセージが表示されます（図14の例を参照）

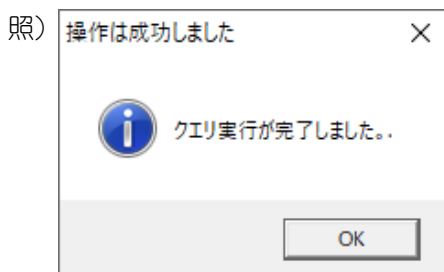


図13: 「操作は成功しました」メッセージ

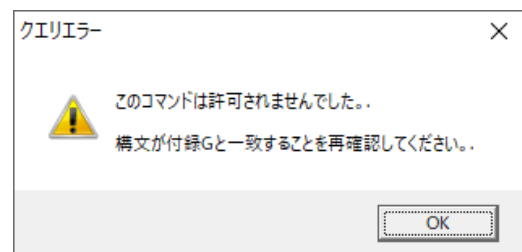


図14: 「クエリエラー」メッセージ

エラーが発生したら、[OK]をクリックして「クエリ」テキストボックスに、上記の手順3に定義されているとおりにコマンドを再入力してエラーを解決します。その際には、コマンドテキストが正しく入力されているか確認してください。続いて、「実行ボタン」をクリックします。本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符を確認してください。引用符が同一でない場合は（異なる方向を向いている場合は）、引用符を編集してクエリを再実行します。それでもエラーメッセージが表示される場合は、当社または販売代理店まで解決方法をお問い合わせください。

Omron Microscan Systems, Inc.
LVS-95XX 検証報告書

総合スコア: 4.0/15/660/D

検証作業者署名

確認者署名

AutoVision Training

LOT 123456
DATE 05/2012

48BEL
<CHECK

2D	
コード体系	Data Matrix
デコード後のテキスト	LABEL CHECK
セルサイズ	31.1 mils
デコード	PASS
コントラスト	4.0 76%
モジュレーション	4.0
反射率マージン	4.0
軸の不均一性	4.0 0.5%
グリッド不均一性	4.0 10%
読み訂正未使用率	4.0 100%
同定/ターン検出	4.0
可変シフトインター 1 (左列)	4.0
可変シフトインター 1 (右列)	4.0
クワイエットゾーン (左列)	4.0
クワイエットゾーン (右列)	4.0
C T R (読み取り方向)	4.0
C T D (読み取り方向)	4.0
SFP (同定/ターン)	4.0
DOCTASA(全体的な特徴と許容範囲)	4.0
AG (グレー度平均値)	4.0
TR (トランジションレシオ)	4.0 0.00
セル幅	31.1 mils
セル高	31.0 mils
シンボルの傾斜	1 度
センサー角度	1 度
光の方向	垂直ドーム
読み取り X方向	53%
読み取り Y方向	53%
コードワード数	24
コードワードデータ数	12
読み訂正	0
サイズ	16x16
最小反射率	6.3%
最大反射率	82.3%
コントラストの均一性	77%
コードの構造	PASS

その他の情報	
レターグレード	A
報告番号	21
検証作業者	admin (LVS Administrator)
Format	TEST
検証場所	ISO/IEC 15415/15416
アクションを制限する	Xdim(モジュール幅・最小セルサイズ)やコードの幅さが、この値の外れていた場合には「グレードF」とします。
採用中の読み取り	読み取り数 15 (15.4 mil)
版別	660/D
日時	12-May-2012 16:35 日本 ; 12-May-2012 07:35 GMT
タイムゾーン	GMT +9
セクターサイズ	0.85" by 0.62"
自己キャリブレーション	26-Jan-2018 09:52 日本 ; 26-Jan-2018 00:52 GMT
検証視野	3.04" (カメラ解像度: 2592x1944 ピクセル)
シリアル番号	ユニット: 1801460, カメラ: 21610890, QRコード モデル: 9585
ソフトウェアバージョン	LVS-95xxバージョン 4.4.3.4102
LVS-95xx製造者:	Omron Microscan Systems, Inc. 700 SW 39th Street, Ste. 100 Renton, WA 98057 USA http://www.microscan.com

2D データ構造	
読み取りデータ	読み取り
LABEL<Space>CHECK	

図15: 1カラムフォーマットの検証レポート

5. LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインします。次回にシンボルのグレードを評価してレポートを印刷する際に、LVS-95□□検証レポートは1カラムフォーマットで表示され、幅が狭いプリンタでも正しく印刷されます。

重要: LVS-95□□検証レポートを2カラムフォーマットに戻すには、上記の手順1および2に従います。その後「クエリ」テキストボックスに、以下のコマンドを入力します。大文字と小文字は区別されません。続いて、「実行ボタン」をクリックします。次回にシンボルのグレードを評価してレポートを印刷する際に、LVS-95□□検証レポートは2カラムフォーマットで表示されます。

update settings set settingvalue = "0" where settingname = "singlecolumn"

Omron Microscan Systems, Inc

LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/15/660/D

検証作業者署名

確認者署名



2D		その他の情報	
コード体系	Data Matrix	レターグレード	A
デコード後のテキスト	LABEL CHECK	報告書番号	21
セルサイズ	31.1 mils	検証作業者	admin (LVS Administrator)
デコード	PASS	Format	TEST
コントラスト	4.0 76%	検証規格	ISO/IEC 15415/15416
モデュレーション	4.0	アクションを制限する	Xdim(モジュール幅・最小セルサイズ)やコードの高さが、の基準の外れていた場合には「グレードF」とします。
反射率マージン	4.0	採用中の開口径	開口径数値 15 (15.4 mil)
軸の不均一性	4.0 0.5%	照明	660/D
グリッド不均一性	4.0 10%	日時	12-May-2023 16:35 日本; 12-May-2023 07:35 GMT
誤り訂正未使用率	4.0 100%	タイムゾーン	GMT +9
固定パターン破損	4.0	セクターサイズ	0.85" by 0.62"
可変Lファインダー 1 (左辺)	4.0	直近キャリブレーション	26-Jan-2018 09:52 日本; 26-Jan-2018 00:52 GMT
可変Lファインダー 1 (底辺)	4.0	検証視野幅	3.04" (カメラ解像度 2592x1944 ピクセル)
クワイエットゾーン (左辺)	4.0	シリアル番号	ユニット: 1801469, カメラ: 21610890, Q Rコード モデル 1: 9585
クワイエットゾーン (底辺)	4.0	ソフトウェアバージョン	LVS-95xx バージョン 4.4.3.4102
C T R (70%外枠)規則性	4.0	LVS-95xx製造者:	Omron Microscan Systems, Inc. 700 SW 39th Street, Ste. 100 Renton, WA 98057 USA http://www.microscan.com
C T D (70%外枠)破損	4.0		
SFP (固定パターン)	4.0		
OCTASA(全体70%外枠と近接固定エリア)	4.0		
AG (グレード平均値)	4.0		
TR (トランジションレシオ)	4.0 0.00		
セル高	31.1 mils		
セル幅	31.0 mils		
シンボルの回転	1 度		
センサー角度	1 度		
光の方向	赤色ドーム		
印刷太り X方向	53%		
印刷太り Y方向	53%		
コードワード数	24		
コードワードデータ数	12		
誤り訂正	0		
サイズ	16x16		
最小反射率	6.3%		
最大反射率	82.7%		
コントラストの均一性	77%		
コードの構造	PASS		

2D データ構造

埋め込みデータ	説明	値
LABEL<Space>CHECK		

図16: 2カラムフォーマットの検証レポート

検証レポートの署名行の変更

デフォルトのLVS-95□□検証レポートには署名行が2行ありますが、システム設定を変更することにより、検証レポート印刷時の署名行を1行、2行（デフォルト）、3行、署名行なし（それぞれ下図20～23の例を参照）にして印刷することができます。

LVS-95□□検証レポートに表示する署名行の数を変更するには、以下の手順に従います。

注意）入力するコマンドは半角文字で入力してください。

1. LVS-95□□に「admin」としてログオンします。
2. [データ管理] タブをクリックします。
3. 画面下部にある[クエリ] テキストボックスに、以下のコマンドを入力します（図17）。なお、大文字と小文字は区別されません。
 - 署名行なしの場合は次のコマンドを入力：
`update settings set settingvalue = "0" where settingname = "signatures"`
 - 署名行1行の場合は次のコマンドを入力：
`update settings set settingvalue = "1" where settingname = "signatures"`
 - 署名行2行（デフォルト）の場合は次のコマンドを入力：
`update settings set settingvalue = "2" where settingname = "signatures"`
 - 署名行3行の場合は次のコマンドを入力：
`update settings set settingvalue = "3" where settingname = "signatures"`

クエリ: <input 2\"="" settingname='\"signatures\""/' type="text" value="update settings set settingvalue = \" where=""/>	実行ボタン
---	--------------------------------------

図17: 上記コマンドのいずれかを [クエリ] テキストボックスに入力

4. [実行ボタン] をクリックします。

- 処理が正しく行われると、[操作は成功しました] にメッセージが表示されます（図18）。
- 処理が正しく行われなければ、[クエリエラー] にメッセージが表示されます（図19の例を参照）

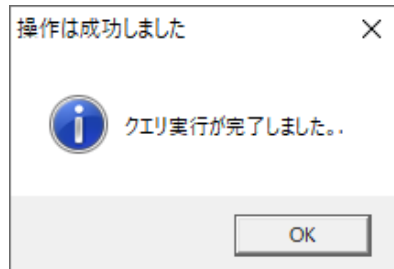


図18: [操作は成功しました] メッセージ

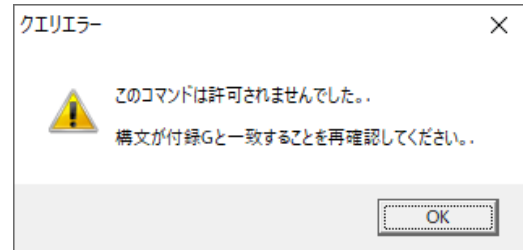


図19: [クエリエラー] メッセージ

エラーが発生したら、[OK]をクリックして[クエリ]テキストボックスに、上記の手順3に定義されているとおりにコマンドを再入力してエラーを解決します。その際には、コマンドテキストが正しく入力されているか確認してください。続いて、[実行ボタン] をクリックします。本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符を確認してください。引用符が同一でない場合は（異なる方向を向いている場合は）、引用符を編集してクエリを再試行します。それでもエラーメッセージが表示される場合は、当社または販売代理店まで解決方法をお問い合わせください。

5. [グレード検証] タブをクリックして検証レポートに対する変更が更新されたことを確認し、[印刷] ボタンをクリックします。検証レポートが表示され、署名行の数を確認できます。
6. LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインします。

署名行のフォーマットの例

署名行が1行の場合

Omron Microscan Systems, Inc LVS-95xx 検証報告書			
総合スコア: 4.0/15/660/D			
検証作業者署名			
2D		その他の情報	
コード体系	Data Matrix	レターグレード	A
デコード後のテキスト	LABEL CHECK	報告書番号	21

図20: 署名行が1行の検証レポートを作成するには、次のコマンドを入力:

`update settings set settingvalue = "1" where settingname = "signatures"`

署名行が2行の場合（デフォルトのフォーマット）

Omron Microscan Systems, Inc LVS-95xx 検証報告書			
総合スコア: 4.0/15/660/D			
検証作業者署名 確認者署名			
2D		その他の情報	
コード体系	Data Matrix	レターグレード	A
デコード後のテキスト	LABEL CHECK	報告書番号	21

図21: 署名行が2行の検証レポートを作成するには、次のコマンドを入力:

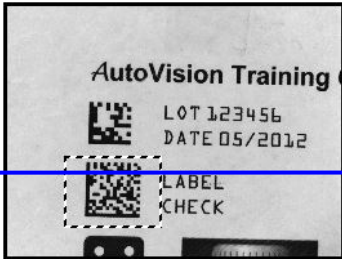
`update settings set settingvalue = "2" where settingname = "signatures"`

署名行が3行の場合

Omron Microscan Systems, Inc
LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/15/660/D

検証責任者	認証者	検証作業者



署名行が3行のレポートでは、各行が独立した3行の署名行としてではなく、表として表示されます。

2D		その他の情報	
コード体系	Data Matrix	レターグレード	A
デコード後のテキスト	LABEL CHECK	報告書番号	21

図22: 署名行が3行の検証レポートを作成するには、次のコマンドを入力:
`update settings set settingvalue = "3" where settingname = "signatures"`

署名行なしの場合

Omron Microscan Systems, Inc
LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/15/660/D



レポートには署名行が表示されません。

2D		その他の情報	
コード体系	Data Matrix	レターグレード	A
デコード後のテキスト	LABEL CHECK	報告書番号	21

図23: 署名行なしの検証レポートを作成するには、次のコマンドを入力:
`update settings set settingvalue = "0" where settingname = "signatures"`

検証レポートに含まれているコードの構造分析の追加または削除

IncludePrintStructure

[IncludePrintStructure]設定を使用して、コードの構造分析を検証レポートに含めるかどうか、およびGS1データ構造情報をデコードされたテキストから分離するかどうかを変更できます。デフォルトでは、検証レポートには自動的にコードの構造分析が含まれ、検証レポートの左下に表示されます。タイトルは「データ構造」です。

1D データ構造		
埋め込みデータ	説明	値
<StartC>		
<FNC1>	FNC1	
01	Global Trade Item Number (GTIN)	(01)
04912345123459	Global Trade Item Number (GTIN)	04912345123459
10	Batch or Lot Number	(10)
<Code B>		
ABC123	Batch or Lot Number	ABC123
<Check 101>		
<Stop>		

データ構造レポートの表示例

検証レポートのコードの構造分析の表示を変更するには、以下の手順に従います。

注意) 入力するコマンドは半角文字で入力してください。

1. LVS-95□□に「admin」としてログオンします。
2. 「データ管理」タブをクリックします。
3. 画面下部にある「クエリ」テキストボックスに、以下のコマンドを入力します（図24）。大文字と小文字は区別されません。この例では、以下に示す値は-1（負の値）であり、検証レポートからコードの構造分析を削除します。指定した動作を使用する設定については、以下の表を参照してください。

update settings set settingvalue = "-1" where settingname = "IncludePrintStructure"

クエリ:

図24: 「クエリ」テキストボックスに次のコマンドを入力:

update settings set settingvalue = "-1" where settingname = "IncludePrintStructure"

4. [実行ボタン] をクリックします。

- 処理が正しく行われると、[操作は成功しました] にメッセージが表示されます（図25）。
- 処理が正しく行われなければ、[クエリエラー] にメッセージが表示されます（図26の例を参照）。

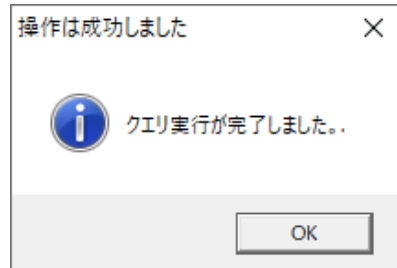


図25

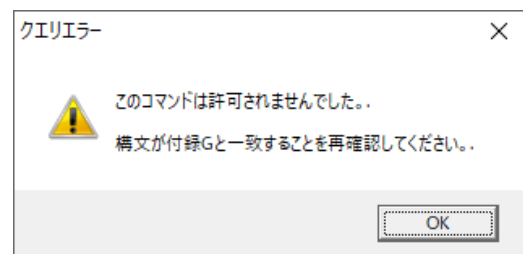


図26

エラーが発生したら、[OK]をクリックして[クエリ]テキストボックスに、上記の手順3に定義されているとおりにコマンドを再入力してエラーを解決します。その際には、コマンドテキストが正しく入力されているか確認してください。続いて、[実行ボタン] をクリックします。本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符を確認してください。引用符が同一でない場合は（異なる方向を向いている場合は）、引用符を編集してクエリを再試行します。それでもエラーメッセージが表示される場合は、当社または販売代理店まで解決方法をお問い合わせください。

5. LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインします。
6. コードの構造分析は検証レポートに表示されません。

SeparateDecodedText

ページに正しく印刷されない長い文字列や大量のデータに対応できるように、SeparateDecodedText機能が追加されました。これにより、デコードされたテキストを独立した表としてレポートの上部へ移動することができます。

- SeparateDecodedText=0（デフォルト）（オフ）を使用すると、デコードされたテキストがメインの表に表示されます。

クエリ:

- SeparateDecodedText=1（オン）を使用すると、デコードされたテキストは独立した表としてレポートの上部に表示されます。

クエリ:

- IncludePrintStructure=2またはIncludePrintStructure=3をSeparateDecodedText=1（オン）と併用すると、GS1の AI は表示されません。GS1の AI は、デコードされたテキストの表に、デコードされたテキストとして1行で表示されます。（「IncludePrintStructure=3およびSeparateDecodedText=1(P.25)」の検証レポート参照）
 - SeparateDecodedText=1（オン）の場合、IncludePrintStructure=1およびIncludePrintStructure=3のレポートはどちらもレポートの下部にデータ構造の表があり、デコードされたテキストは独立した表として表示されます。
 - SeparateDecodedText=1（オン）の場合、IncludePrintStructure=2のレポートにはデコードされたテキストの独立した表がありますが、データ構造の表はありません。

設定		表示される情報		
Include Print Structure (IPS)コマンド	Separate Decoded Text (SDT)コマンド	データ構造表	デコードされたテキスト	GS1 AIおよびその値*
0または1	0	独立した表	1Dまたは2Dの表	なし
0、1または3	1	独立した表	独立した表	なし
-1	0	なし	1Dまたは2Dの表	なし
-1または2	1	なし	独立した表	なし
2	0	なし	なし	1Dまたは2Dの表
3	0	独立した表	なし	1Dまたは2Dの表

*GS1アプリケーション規格は、AI informationを選択する必要があります。

IncludePrintStructureとSeparateDecodedTextの例

IncludePrintStructure=1 または IncludePrintStructure=0（デフォルト）

レポートにはStructureの表が含まれています。デコードされたテキストは、下図に示すように2Dの表に表示されます。

“IncludePrintStructure=1”と“IncludePrintStructure=0”の機能は同じです。“IncludePrintStructure=0”はデフォルト設定です。

Omron Microscan Systems, Inc.
LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/08/660/D

検証作業者署名

確認者署名



5 of 25 GS1 Data Mat

www.microscan.com 800.762.1149 425.226.5

2D		その他の情報	
コード体系	GS1 Data Matrix	GS1データ	(01)00614141999996(17)151200(10)ABC123(30)30
デコード後のテキスト	01006141419999961715120010ABC1233030	GS1データ コードの構造 O K/N G	PASS
セルサイズ	36.9 mils	レターグレード	A
デコード	PASS	報告書番号	55
コントラスト	4.0 82%	検証作業者	admin (LVS Administrator)
モデュレーション	4.0	検証規格	GS1 総合仕様書
反射率マージン	4.0	GS1テーブル	表 6 - 規格対象ヘルスケア製品(小売向けでなく、目つ一般物流環境でも読み取れない製品)
輪の不均一性	4.0 0.7%	アクションを制限する	Xdim(モジュール幅・最小セルサイズ)やコードの高さが、基準を外れていても、そのままグレード評価しますが、警告は表示しません。
グリッド不均一性	4.0 3%	採用中の開口径	開口径数値 08 (7.98 mil)
振り訂正未使用率	4.0 100%	照明	660/D
固定バターン破損	4.0	日時	26-Jun-2023 19:03 日本; 26-Jun-2023 10:03 GMT
可変ファイナダー 1 (左辺)	4.0	タイムゾーン	GMT +9
可変ファイナダー 1 (底辺)	4.0	セクターサイズ	0.96" by 0.96"
クワイエットゾーン (左辺)	4.0	直近キャリブレーション	26-Jan-2018 09:52 日本; 26-Jan-2018 00:52 GMT
クワイエットゾーン (底辺)	4.0	検証視野幅	3.04" (カメラ解像度 2592x1944 ピクセル)
C T R (加付マージン規則性)	4.0	シリアル番号	ユニット: 1801469, カメラ: 21610890, Q Rコード モデル 1: 9585
C T D (加付マージン規則性)	4.0	ソフトウェアバージョン	LVS-95xx バージョン 4.4.3.4102
SFP (固定バターン)	4.0	LVS-95xx製造者:	Omron Microscan Systems, Inc. 700 SW 39th Street, Ste. 100 Renton, WA 98057 USA http://www.microscan.com
OCTASA(全体加付マージンと近接固定11P)	4.0		
AG (グレード平均値)	4.0		
TR (トランジションレシオ)	4.0 0.00		
セル高	37.0 mils		
セル幅	36.8 mils		
シンボルの回転	0 度		
センサー角度	0 度		
光の方向	赤色ドーム		
印刷太り X方向	50%		
印刷太り Y方向	50%		
コードワード数	40		
コードワードデータ数	22		
振り訂正	0		
サイズ	20x20		
最小反射率	4.3%		
最大反射率	86.7%		
コントラストの均一性	81%		
コードの構造	PASS		

2D データ構造		
埋め込みデータ	説明	値
<232>	FNC1	
01	Global Trade Item Number (GTIN)	(01)
00614141999996	Global Trade Item Number (GTIN)	00614141999996
17	Expiration Date (YYMMDD)	(17)
151200	Expiration Date (YYMMDD)	151200
10	Batch or Lot Number	(10)

IncludePrintStructure=2

このレポートにはGS1データが含まれています。AIは、2Dの表にあるグローバル・トレード・アイテム・ナンバー、有効期限、バッチ/ロット #の各行に表示されます。このレポートにはデータ構造の表は含まれていません。

Omron Microscan Systems, Inc.
LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/08/660/D

検証作業者署名

確認者署名



5 of 25 GS1 Data Mat

www.microscan.com 800.762.1149 425.226.5

2D		その他の情報	
コード体系	GS1 Data Matrix	GS1データ	(01)00614141999996(17)151200(10)ABC123(30)30
グローバル・トレード・アイテム・ナンバー (GTIN)	(01)00614141999996	GS1データ コードの構造 O K / N G	PASS
有効期限 (YYMMDD)	(17)151200	レタージェード	A
バッチ/ロット #	(10)ABC123	報告書番号	55
Count of Items (variable measure Trade Item)	(30)30	検証作業者	admin (LVS Administrator)
セルサイズ	36.9 mils	検証規格	GS1 総合仕様書
デコード	PASS	GS1テーブル	表 6 - 規制対象ヘルスケア製品(小売向けでなく、目つ一般物流環境でも読み取られない製品)
コントラスト	4.0 88%	アクションを制限する	Xdim(モジュール幅・最小セルサイズ)やコードの高さが、基準を外れていても、そのままグレード評価しますが、警告は表示し
モデューレーション	4.0		
反射率マージン	4.0		
軸の不均一性	4.0 0.7%		
グリッド不均一性	4.0 3%		
誤り訂正未使用率	4.0 100%		
固定パターン破損	4.0		
可変Lファインダー 1 (左辺)	4.0		
可変Lファインダー 1 (底辺)	4.0		
クワイエットゾーン (左辺)	4.0		
クワイエットゾーン (底辺)	4.0		
C T R (加付ラベル)規則性	4.0		
C T D (加付ラベル)破損	4.0		
SFP (固定パターン)	4.0		
OCTASA(全体加付ラベルと近接固定LIP)	4.0		
AG (グレード平均値)	4.0		
TR (トランジションレシオ)	4.0 0.00		
セル高	37.0 mils		
セル幅	36.8 mils		
シンボルの回転	0 度		
センサー角度	0 度		
光の方向	赤色ドーム		
印刷太り X方向	50%		
印刷太り Y方向	50%		
コードワード数	40		
コードワードデータ数	22		
誤り訂正	0		
サイズ	20x20		
最小反射率	4.3%		
最大反射率	86.7%		
コントラストの均一性	81%		
コードの構造	PASS		

デコードされたテキストを独立した表として表示するには、"SeparateDecodedText=1"コマンドを使用します。

注: GS1データのAIは表示されません。

LVS-95xx製造者:

Omron Microscan Systems, Inc.
700 SW 39th Street, Ste. 100
Renton, WA 98057 USA
<http://www.microscan.com>

IncludePrintStructure=3

このレポートにはStructureの表が含まれています。GS1 AIデータは、2Dの表にあるグローバル・トレード・アイテム・ナンバー、有効期限、バッチ/ロット #の各行に表示されます。

Omron Microscan Systems, Inc.
LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/08/660/D

検証作業者署名

確認者署名

5 of 25 GS1 Data Matrix



www.microscan.com 800 752 1149 425 235 5

2D		その他の情報	
コード体系	GS1 Data Matrix	GS1データ	(01)00614141999996(17)151200(10)ABC123(30)30
グローバル・トレード・アイテム・ナンバー (GTIN)	(01)00614141999996	GS1データ コードの構造 O K / N G	PASS
有効期限 (YYMMDD)	(17)151200	レターグレード	A
バッチ/ロット #	(10)ABC123	報告書番号	55
Count of Items (Variable Measure Trade Item)	(30)30	検証作業者	admin (LVS Administrator)
セルサイズ	36.9 mils	検証規格	GS1 組合仕様書
デコード	PASS	GS1テーブル	表 6 - 規制対象ヘルスクラ製品(小売向けでなく、目撃一般物流環境でも読み取れない製品)
コントラスト	4.0 82%	アクションを制限する	Xdim(モジュール幅・最小セルサイズ)やコードの縦さが、基準を外れていても、そのままグレード評価しますが、警告は表示しません。
モデュレーション	4.0	採用中の開口径	開口径数値 08 (7.98 mil)
反射率マージン	4.0	版数	660/D
軸の不均一性	4.0 0.7%	日時	26-Jun-2023 19:03 日本; 26-Jun-2023 10:03 GMT
グリッド不均一性	4.0 3%	タイムゾーン	GMT +9
読み訂正未使用率	4.0 100%	モクスターサイズ	0.96" by 0.96"
両面パターン読取	4.0	商品名(メーカー・ブランド)	26-Jan-2018 09:52 日本; 26-Jan-
可変シフティング1 (左列)	4.0	検証者	
可変シフティング1 (右列)	4.0	シリアル	
クワイエットゾーン (左列)	4.0	ソフト	
クワイエットゾーン (右列)	4.0	LVS-95	
CT R (70%外側)規則性	4.0		
CT D (70%外側)読取	4.0		
SFP (両面パターン)	4.0		
OCTASA(全体加外側と近接両面列)	4.0		
AG (グレード平均値)	4.0		
TR (トランジションレシオ)	4.0 0.00		
セル高	37.0 mils		
セル幅	36.8 mils		
シンボルの回転	0 度		
センサ角度	0 度		
光の方向	垂直ドーム		
印刷太り X方向	50%		
印刷太り Y方向	50%		
コードワード数	40		
コードワードデータ数	22		
読み訂正	0		
サイズ	20x20		
最小反射率	4.3%		
最大反射率	86.7%		
コントラストの均一性	81%		
コードの構造	PASS		

2D データ構造

読み込みデータ	説明	値
<232>	FNC1	
01	Global Trade Item Number (GTIN)	(01)
00614141999996	Global Trade Item Number (GTIN)	00614141999996
17	Expiration Date (YYMMDD)	(17)
151200	Expiration Date (YYMMDD)	151200
10	Batch or Lot Number	(10)
ABC123	Batch or Lot Number	ABC123
<232>	FNC1	
30	Count of Items (Variable Measure Trade Item)	(30)
30	Count of Items	30

デコードされたテキストを独立した表として表示するには、"SeparateDecodedText=1" コマンドを使用します。
注: GS1データのAIは表示されません。

IncludePrintStructure=3およびSeparateDecodedText=1

このレポートにはデータ構造の表が含まれています。デコードされたテキストは独立した表に表示されます。

Omron Microscan Systems, Inc.

LVS-95xx 検証報告書

総合スコア: 4.0/08/660/D

検証作業者署名

確認者署名

デコード後のテキスト

01006141419999961715120010ABC1233030



2D	
コード体系	GS1 Data Matrix
セルサイズ	36.9 mils
デコード	PASS
コントラスト	4.0 82%
モジュレーション	4.0
反射率マージン	4.0
線の不均一性	4.0 0.7%
グリッド不均一性	4.0 3%
読み取り未使用率	4.0 100%
固定バーステンション	4.0
可変バーステンション 1 (左列)	4.0
可変バーステンション 1 (右列)	4.0
クワイエットゾーン (左列)	4.0
クワイエットゾーン (右列)	4.0
C T R (90°外向き) 規則性	4.0
C T D (90°外向き) 規則性	4.0
SFP (両向き)	4.0
OCTASA (全体90°外向きと近接両向き)	4.0
AG (グレード平均値)	4.0
TR (トランジションレシオ)	4.0 0.00
セル幅	37.0 mils
セル高	36.8 mils
シンボルの回転	0 度
センサー向き	0 度
光の方向	赤外線ドーム
印刷太り X方向	50%
印刷太り Y方向	50%
コードフォード数	40
コードフォードデータ数	22
読み取り	0
サイズ	20x20
最小反射率	4.3%
最大反射率	86.7%
コントラストの均一性	81%
コードの構造	PASS

その他の情報	
GS1データ	(01)00614141999996(17)151200(10)ABC123(30)30
GS1データコードの構造 O K/N G	PASS
レータグレード	A
報告番号	55
検証作業者	admin (LVS Administrator)
検証規格	GS1 総合仕様書
GS1データ	表 6 - 規制対象ヘルスケア製品(小売向けでなく、目次一般 物流環境でも読み取れない製品)
アクションを制限する	Xdim(モジュール幅・最小セルサイズ)やコードの長さ、暴 音を外れていても、そのままグレード評価しますが、警告は表示し ません。
採用時の読み取り	読み取り距離 08 (7.98 mil)
説明	
日時	
タイムゾーン	
セクター	
直近キャンセル	
検証履歴	
シリアル番号	Q Rコード モデル 1: 9585
ソフトウェアバージョン	LVS-95xx バージョン 4.4.3.4102
LVS-95xx製造者:	Omron Microscan Systems, Inc. 700 SW 39th Street, Ste. 100 Renton, WA 98057 USA http://www.microscan.com

SeparateDecodedTextがオンのコマンドを使用すると、テキストは、独立した1行の表として表示されます。GS1 データのAIは個別の行に分離されません。

2D データ構造		
項目/読みデータ	説明	値
<232>	FNC1	
01	Global Trade Item Number (GTIN)	(01)
00614141999996	Global Trade Item Number (GTIN)	00614141999996
17	Expiration Date (YYMMDD)	(17)
151200	Expiration Date (YYMMDD)	151200
10	Batch or Lot Number	(10)
ABC123	Batch or Lot Number	ABC123
<232>	FNC1	
30	Count of Items (Variable Measure Trade Item)	(30)
30	Count of Items	30

CommPort設定の変更

通信ポートの設定では、データを送信するポートを定義することができます。

CommPortのデフォルト設定は1で、データがCommPort 1に公開されることを示しています。データを別のCommPortに公開する場合、またはCommPortをオフにする場合は、以下の手順に従います。

注意) 入力するコマンドは半角文字で入力してください。

1. LVS-95□□に「admin」としてログオンします。
2. 「データ管理」タブをクリックします。
3. 画面下部にある「クエリ」テキストボックスに、以下のコマンドを入力します（図27）。なお、大文字と小文字は区別されません。
 - CommPortをオフにする場合は次を入力:
update settings set settingvalue = "0" where settingname = "commport"
 - データをCommPort 2に公開する場合は次を入力:
update settings set settingvalue = "2" where settingname = "commport"
 - データをCommPort 3に公開する場合は次を入力:
update settings set settingvalue = "3" where settingname = "commport"

目的の各CommPortに応じて上記の例に従います。

図27: 上記コマンドのいずれかを「クエリ」テキストボックスに入力

4. 「実行ボタン」をクリックします。
 - 処理が正しく行われると、「操作は成功しました」にメッセージが表示されます（図28）。
 - 処理が正しく行われなければ、「クエリエラー」にメッセージが表示されます（図29の例を参照）。

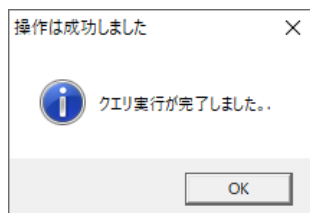


図28: 「操作は成功しました」メッセージ

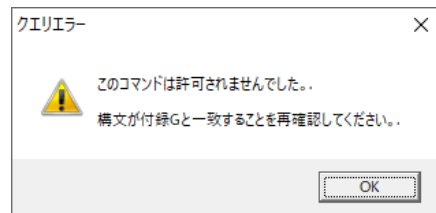


図29: 「クエリエラー」メッセージ

エラーが発生したら、[OK]をクリックして「クエリ」テキストボックスに、上記の手順3に定義されているとおりにコマンドを再入力してエラーを解決します。その際には、コマンドテキストが正しく入力されているか確認してください。続いて、「実行ボタン」をクリックします。本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符を確認してください。引用符が同一でない場合は（異なる方向を向いている場合は）、引用符を編集してクエリを再実行します。それでもエラーメッセージが表示される場合は、当社または販売代理店まで解決方法をお問い合わせください。

5. LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインします。

自動ログイン

LVS-95□□では、システムにログオンする際にはユーザがオペレーターIDとパスワードを入力する必要があります。自動ログイン機能を有効にしておくと、オペレーターIDとパスワードを入力せずにLVS-95□□に自動的にログオンできます。以下の各項では、自動ログイン機能を有効化、無効化、バイパスする方法について説明します。

自動ログイン機能はLVS-95□□の標準機能ではなく、別売となっています。詳細については、『コードリーダカタログ(SDNC-010)』をご覧ください。当社または販売代理店までお問い合わせください。自動ログイン機能を使用すると、21 CFR Part 11への準拠は無効になります。

自動ログインの有効化

自動ログインを有効にするには3段階の手順が必要です。手順の各段階については以下の各項で説明します。

1. セキュリティシリアル番号を確認する。
2. 自動ログインを有効にする。
3. オペレーターとして「Automatic」と入力する。

手順1: セキュリティシリアル番号を確認する

1. LVS-95□□を起動すると、[初期画面]ページが表示されます。
2. “バージョン”の部分をダブルクリックします（図30）。



図30: “バージョン”をダブルクリック

3. セキュリティシリアル番号を確認し（図31）、この番号を販売代理店または当社までお知らせください。

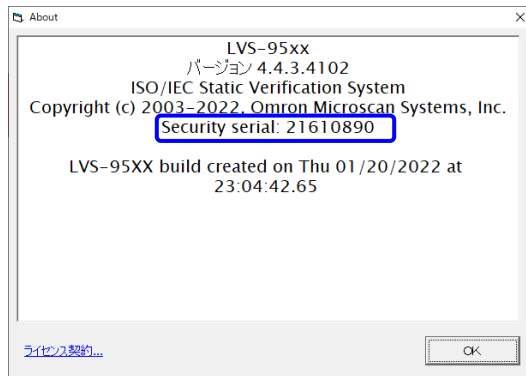


図31: セキュリティシリアル番号

手順2: 自動ログインを有効にする

LVS-95□□システムでマルチセクタバーコード検証機能を有効化するには、以下の手順に従います。

なお、有効化するには当社または販売代理店から受領した8桁のコードが必要です。

1. LVS-95□□にログオンし、[セットアップ]タブをクリックします。
2. [オプション機能]セクション内で、[オプション機能の変更・追加]ボタン（図32-1）をクリックします。LVS-95□□の機能リストが表示されます（図32-2）。

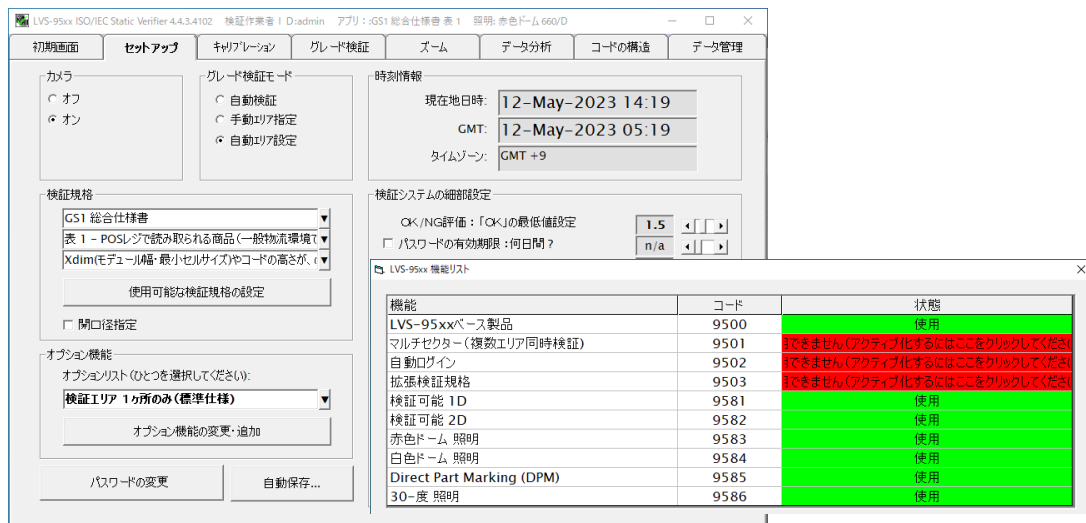


図32-1: [オプション機能の変更・追加]ボタン、図32-2: LVS-95□□の機能リスト

3. 「自動ログイン」の横にある「使用できません(アクティブ化するにはここをクリックしてください)」をクリックします。「アクティベーションコードを入力してください」ウィンドウが表示されます(図32-3)。当社または販売代理店から受領した8桁のアクティベーションコードを入力し、[OK]をクリックします。

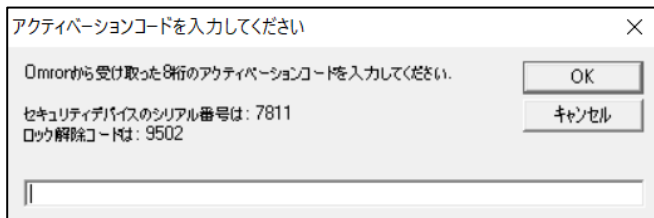


図32-3: 「アクティベーションコードを入力してください」ウィンドウ

4. これで自動ログイン機能が有効になります(図32-4)。

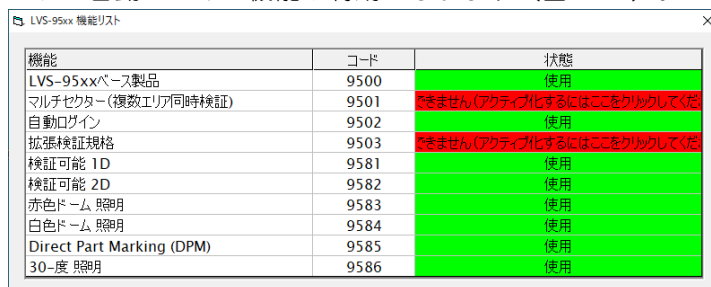


図32-4: ステータスが「使用」で、自動ログインが有効であることを示しています

手順3: オペレーターとして“Automatic”を設定する

1. LVS-95□□を起動します。
2. 画面の上部にある任意のタブをクリックします。「ログイン」ボックスが表示されます(図33)。

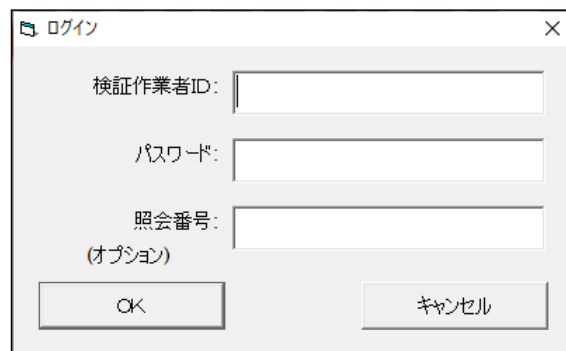


図33: 「ログイン」ボックス

- 検査作業員IDとして「LVS」と入力します。
- 「パスワード」フィールドに、LVSに続けてMicroscanから提供されたパスワードを入力します。たとえばパスワードが1234の場合は、「LVS1234」と入力します。
- [OK]をクリックします。

3. [セットアップ] タブ、[検証作業登録] の順にクリックします (図34)。

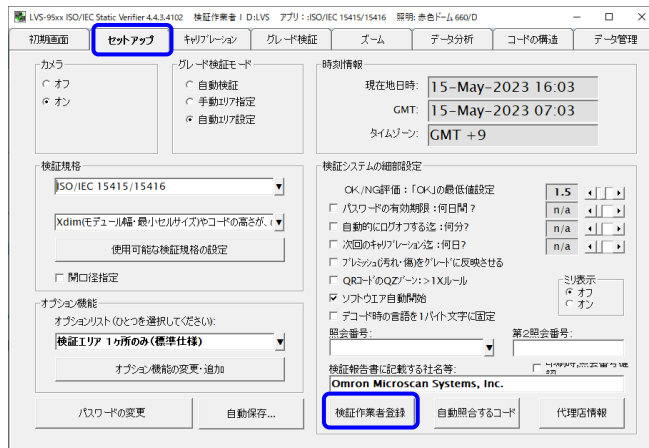


図34: [セットアップ] タブの [検証作業登録] ボタン

4. [オペレーター管理] ウィンドウが表示されます (図35)。



図35: [オペレーター管理] ウィンドウ

5. [検証作業ID(短縮名)] フィールドと [検証作業(フルネーム)] フィールドの両方に「Automatic」と入力します (図36)。
6. [パスワード] フィールドに「ログイン」と入力します。
7. [許可する権限] セクションで、目的の権限を選択します。
8. [完了] をクリックします。
9. [変更を保存] をクリックします。



図36: [完了]、[変更を保存] の順にクリック

10. ログアウトした後、再度LVS-95□□にログインします。これで自動ログイン機能が有効になり、オペレーターIDとパスワードを入力せずにLVS-95□□に自動的にログインできます。

自動ログインの無効化

自動ログインを無効にするには、“Automatic”というオペレーターをLVS-95□□から削除する必要があります。詳しい操作については、以下の手順を参照してください。

システムからオペレーターを削除できるのは、[オペレーターの追加と編集する権限]の権限を付与されているユーザに限られます。

1. システムにログインします。
2. [セットアップ] タブ、[検証作業登録] の順にクリックします。
3. [検証作業] のリストから[Automatic]を選択します（図37）。
4. [現在の作業者を削除] をクリックします。
5. [完了] をクリックします。
6. [Save changes]をクリックします。



図37: [現在の作業者を削除] をクリック

自動ログインのバイパス

LVS-95□□にログインする際に、自動ログインをバイパスしてオペレーターIDとパスワードを入力するには、以下の手順に従います。

1. LVS-95□□を起動すると、[初期画面] ページが表示されます。
2. キーボードの[Ctrl]+[L]キーを押します。
3. 画面の上部にある任意のタブをクリックします。[ログイン] ボックスが表示され、オペレーターIDとパスワードの入力を求められます。

カスタムレポート

GS1 1Dおよび2Dレポートテンプレートの使用に関する重要事項: GS1 1Dおよび2Dレポートテンプレートはすべての組織および企業が品質プログラムの一環として使用できますが、その際には、GS1ロゴ（またはGS1による実際の承認を明示するすべての見出しやテキスト）の著作権に配慮してください（認定プログラムなどの現地の使用許諾契約が適用されますが、例外が認められる場合もあります）。

カスタムレポート機能に関する重要事項: カスタムレポート機能を使用するには、LVS-95□□ソフトウェアを実行しているコンピュータにMicrosoft® Wordがインストールされている必要があります。LVS-95□□ソフトウェアは、Microsoft Wordバージョン97～2010に対応しています。デフォルトのテンプレートはWord 1997～2003のドキュメント形式(.doc)で、上位バージョンのドキュメント形式(.docx)で保存できます。

LVS-95□□ソフトウェアでは、{overall grade}などの波かっこで囲まれたパラメータ名に基づきドキュメントテンプレートが検索され、カスタムレポートにデータが入力されます。その後、関連付けられたパラメータ名の代わりに現在のバーコードの検証データが入力されます。この処理は差し込み印刷と同様です。有効なパラメータ名（および検証データのサンプル）の一覧を後出の表に示します。

LVS-95□□ソフトウェアのインストール時には、GS1 General Specificationsにより定義されたデフォルトのバーコード検証テンプレートが、以下に示す場所に保存されます。

- C:\Users\Public\LVS-95xx\CustomReportTemplates

LVS-95□□シリーズには、以下の2種類のカスタムレポートがあります。

- GS1 1D Report.doc
- GS1 2D Report.doc

LVS-95□□ソフトウェアバージョン3.0.9を新規インストールした場合は、上記の2つのレポートが表示されます。LVS-95□□システムのソフトウェアを旧バージョンからバージョン3.0.9にアップグレードした場合は、上記の2つのレポートが表示され、3つ目のレポートとしてGS1 Report.docという名前のレポートが表示されます。GS1 Report.docはGS1 1D Report.docのコピーであり、同じデータが含まれています。したがって、GS1 1D Report.docまたはGS1 Report.docのどちらでも1Dレポートデータを確認できます。

必要に応じてパラメータを追加または削除したり、ドキュメントのフォーマットを変更したりすることもできます。デフォルトのテンプレートは内容を変更せずに、デフォルトのテンプレートのコピーを作成し、コピーの内容を変更して別名で新規ドキュメントとして保存するとよいでしょう。カスタムテンプレートの命名規則によって、シンボルのグレード評価に使用されるアプリケーション規格（GS1 General SpecificationsまたはISO 15415/15416）が決まります。GS1で始まる名前のカスタムテンプレート（GS1 1D Report.docなど）はGS1 General Specificationsアプリケーション規格を使用し、GS1以外で始まる名前のカスタムテンプレートはISO 15415/15416アプリケーション規格を使用します。

カスタムテンプレートのファイル名に関する重要事項: ファイル名が“GS1”で始まる場合、LVS-95□□ソフトウェアはバーコード検証にGS1 General Specificationsアプリケーション規格のルールを適用し、それ以外の場合はISO 15415/15416アプリケーション規格のルールをバーコード検証に適用します。

ユーザが作成したカスタムテンプレートがLVS-95□□ソフトウェアで使用可能になるのは、LVS-95□□ソフトウェアが完全に終了された後のみです（〔初期画面〕画面に戻るだけでは使用可能になりません）。カスタムテンプレートは、〔セットアップ〕タブの〔検証規格〕ドロップダウンボックスからアプリケーション規格と同様に選択できます（図38）。〔使用可能な検証規格の設定〕をクリックして、〔検証規格〕ウィンドウで〔使用可〕列が[Yes]に設定され、チェックマーク✓が表示されていることを確認します。

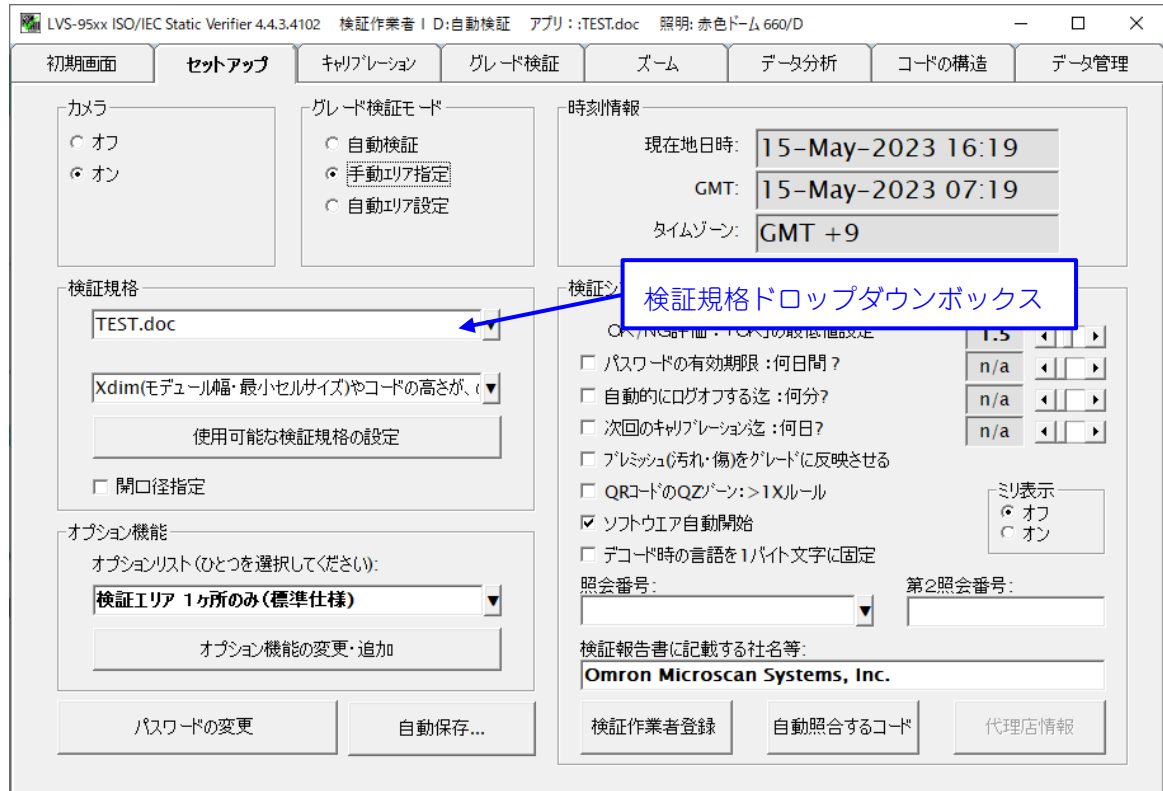


図38: 〔検証規格〕ドロップダウンボックス

デフォルトのテンプレートをカスタマイズするには、デフォルトのテンプレートのコピーを作成し（オリジナルを保護するため）、Microsoft Wordを使用して、必要な数だけ波かっこで囲まれたパラメータ名を追加または削除します。その他のフォーマットも必要であれば変更し、変更後のテンプレートを（上記の命名規則を使用して）使用中のオペレーティングシステムに応じた適切なフォルダに保存します。

まったく新しいテンプレート（GS1以外のフォーマットを使用するテンプレート）を作成するには、Microsoft Wordを使用して新規ドキュメントを作成し、必要な数だけ波かっこで囲まれたパラメータ名を追加して、目的のフォーマットを設定し、作成後のテンプレートを（上記の命名規則を使用して）使用中のオペレーティングシステムに応じた適切なフォルダに保存します。有効なパラメータ名および検証データのサンプルの一覧を後出の表に示します。

カスタムテンプレートを保存したら、LVS-95□□ソフトウェアを起動してログインし、[セットアップ] タブへ移動します。新規のカスタムテンプレートは、[検証規格] のドロップダウンウィンドウに表示されます。[使用可能な検証規格の設定] をクリックして、[検証規格] ウィンドウで [使用可能] 列が [はい] に設定され、チェックマーク✓が表示されていることを確認します。

パラメータ名	パラメータ値の例
AG (Average Grade)	4.0
Application Standard	AS9132-A / AIM DPM Cat 0
Axial Nonuniformity	3.0 7%
Bar Growth	5%
Bar Height	12.614mm
Blemish	0.0 62%
Cell Height	9.7 mils
Cell Size	9.0 mils
Cell Width	8.4 mils
Codeword PQ (Print Quality)	4.0
Codeword Yield	3.0 69%
Company Name	Microscan
Contrast	1.6 41%
Corrections	0
CTR (Clock Track Regularity)	4.0
CTD (Clock Track Damage)	4.0
Data CW	12
Date and Time	01-Jun-2007 11:28 local; 01-Jun-2007 15:28 GMT
Decodability	0.0 0%
Decode	FAIL
Decoded Text	9533027MW6 Demo

パラメータ名	パラメータ値の例
Defects	3.7 14%
Distortion Angle	PASS 0°
Dots Out of Range	PASS 0%
Edge Determ	PASS
Edge Determ (エラーにより総合グレードが低下)	75% ERROR
Effective Aperture	Reference number 20 (20 mil)
Erasures	0
Field of View	0.18" (カメラは92×106ピクセル)
Fixed Pattern Damage	4.0
Grid Nonuniformity	4.0 1%
GT	47%
Human Readable	?
L1 (L字型ファインダの左側)	4.0
L1 Angle	179 degrees
L2 (L字型ファインダの下側)	4.0
Last Calibration	Never
Min Reflect	PASS
Minimum EC	FAIL 0%
Modulation	4.0
NW Ratio	1:3
OCTASA (Overall Clock Track and Solid Area)	4.0
Operator	Microscan (Microscan Master Administrator)
Overall grade	0.0/10/660
Product lookup	UPC-A master grade
Quiet Zone	FAIL
QZL1 (左側のクワイエットゾーン)	4.0
QZL2 (下側のクワイエットゾーン)	4.0
ReportID	24
Rmax	94%
Rmin	7%
Row Height	19.1 mils
Sector Size	1.55" by 1.05"
Serial Numbers	ユニット: 60999、カメラ: 135268
SFP (Solid Fixed Pattern)	4.0

パラメータ名	パラメータ値の例
Size	16x16
Software Product and Version	LVS-95XX Version X.X.X
Symbology	ECC-200
Thumbnail	Most recent image scanned
Time Zone	GMT-4
Total CW	24
TR (Transition Ratio)	0.00
Unused EC	4.0 100%
Warning	Extended area around symbol contains extremes of reflectance
Wavelength	660nm
X Print Growth	50%
Xdim	0.350mm
Y Print Growth	48%

デフォルトのレポートはこれらのパラメータを一部のみ使用していますが、上表に記載されているパラメータはすべて、必要に応じて使用することができます。

上記のパラメータ値の使用例を以下に示します。

テンプレートに記述されているテキスト:	レポートに表示されるテキスト:
The symbology for this code is {symbology}	The symbology for this code is ECC-200
The cell size for this code is {cell size}	The cell size for this code is 9.0 mils

リファレンスレポートに出力するパラメータの変更

LVS-95□□では、選択したリファレンスデータを含むすべての検証レポートを表示することができます。[セットアップ] タブへ移動してドロップダウンリストから目的のリファレンスを選択します。

[データ管理] タブへ移動して、[現照会番号の検証結果だけを表示] ボタンをクリックします。

[データ管理] タブで [CSV形式でデータ保存] ボタンをクリックして、リファレンスレポートをエクスポートします。リファレンスレポートをエクスポートする際には、特定のリファレンスに関するすべてのパラメータがエクスポートされます。以下の手順では、リファレンスレポートにエクスポートするパラメータのみを定義する方法を説明しています。

メモ帳またはワードパッドを開き、リファレンスレポートに出力するパラメータを、リファレンスレポートでの出現順に入力します。パラメータ名は、縦棒(;)を使用して区切ります。パラメータと縦棒の間にスペースは入れません(図39)。

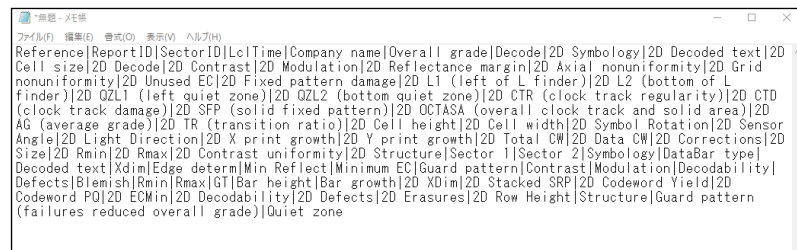


図39: 縦棒で区切られたパラメータ名

1. [ファイル] をクリックし、メニューバーから [保存] を選択してファイルを保存します。
2. ファイルにExportOverride.vbdという名前を付けます（大文字と小文字は区別されません）。.vbd ファイルとは、縦棒を区切り文字として使用する(vertical bar delimited)ファイルです。
3. エクスプローラーでファイルを以下の場所に保存します。
 - ファイルをC:\Users\Public\LVS-95XXに保存する。

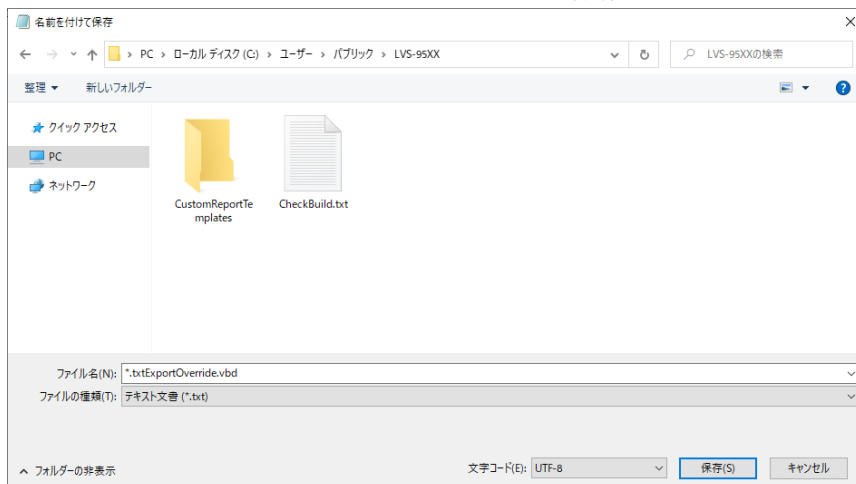


図40: ファイルに“ExportOverride.vbd”という名前を付けます

4. [保存] ボタンをクリックします。
5. [データ管理] タブで [CSV形式でデータ保存] ボタンをクリックして、リファレンスデータをエクスポートします。
6. すべてのレコードを含めるかどうかを尋ねられたら、[はい] または [いいえ] を選択します（図41）。

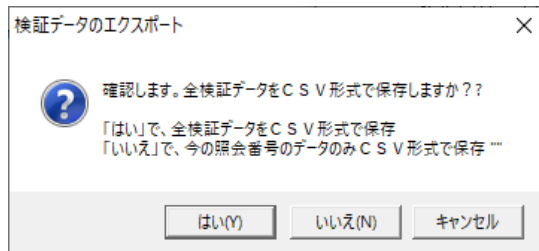


図41: [はい] または [いいえ] を選択

7. このファイルを、C:\Users\Public\LVS-95XX に置き、[保存] ボタンをクリックします。
8. ファイルを開き、新しいユーザ定義のパラメータがリファレンスレポートに表示されていることを確認します。
9. デフォルトのエクスポート用リファレンスファイルに戻すには、ExportOverride.vbdを削除します。

セクタIDが“ALL” のものを除いてエクスポート

リファレンスレポートをエクスポートする際には、デフォルトではセクタ名にかかわらずすべての検証レポートデータがエクスポートされます。以下の手順では、セクタIDが“ALL” ではないセクタをすべてエクスポートする方法を説明しています。セクタIDが“ALL” のセクタは、マルチセクタ検証または Multi-Rotationアプリケーション規格を使用すると作成されるサマリレコードです。

エクスポート時に“ALL” というセクタIDを除外するには、以下の手順に従います。

1. LVS-95□□に「admin」としてログオンします。
2. [データ管理] タブをクリックします。
3. 画面下部にある [クエリ] テキストボックスに、以下のコマンドを入力します（図42）。なお、大文字と小文字は区別されません。

update settings set settingvalue = “1” where settingname = “ExcludeAllOnExport”

図42: [クエリ] テキストボックスに次のコマンドを入力: update settings set settingvalue = “1” where settingname = “ExcludeAllOnExport”

4. [実行ボタン] をクリックします。
 - 処理が正しく行われると、[操作は成功しました] にメッセージが表示されます（図43）。
 - 処理が正しく行われなければ、[クエリエラー] にメッセージが表示されます（図44の例を参照）。

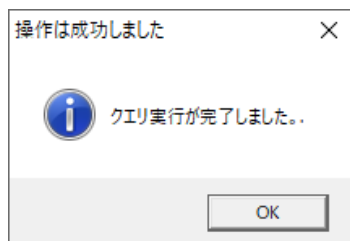


図43: [操作は成功しました] メッセージ

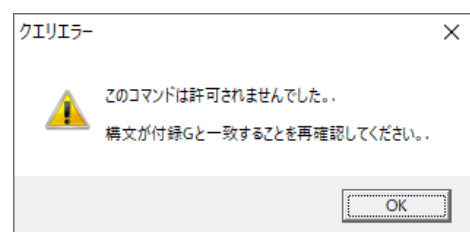


図44: [クエリエラー] メッセージ

エラーが発生したら、[OK]をクリックして [クエリ] テキストボックスに、上記の手順3に定義されているとおりにコマンドを再入力してエラーを解決します。その際には、コマンドテキストが正しく入力されているか確認してください。続いて、[実行ボタン] をクリックします。それでもエラーメッセージが表示される場合は、販売代理店または当社まで解決方法をお問い合わせください。

5. ここで、LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインできます。
6. リファレンスレポートをエクスポートする際には、セクタIDが“ALL” のセクタを除くすべての検証レポートデータがエクスポートされます。

重要: エクスポートにセクタIDが“ALL” のセクタを含めるには、[クエリ] テキストボックスに以下のコマンドを入力します。

Update settings set settingvalue = “0” where settingname = “ExcludeAllOnExport”

Windows® ロックダウン

Windows® ロックダウン機能は Windowsオペレーティングシステムをロックダウンし、システムを安全に保ちます。ユーザがシステム設定を変更できないようにします。

オペレーティングシステムをロックダウンするには、以下の手順に従います。

1. LVS-95XXソフトウェアにログインします。[オペレーターの追加/変更を許可] の権限を持つユーザでログインする必要があります。(図45)。

許可する権限 (チェックを入れて有効)

- ☒ オペレーターの追加と編集する権限
- ☐ キャリブレーション作業を行なう権限
- ☐ セットアップオプションを設定する権限
- ☐ OK/NG判定に切替える権限
- ☐ ISOグレード検証に切替える権限
- ☐ 検証規格の追加・削除を行なう権限
- ☐ 保存データの編集を行なう権限

図45: オペレーターに許可する権限欄

2. [セットアップ] タブをクリックし、[検証作業登録] ボタンをクリックします。オペレーター管理ウィンドウが表示されます (図46)。

オペレーター管理

検証作業登録

現在の作業者を編集

現在の作業者を削除

変更を中止

変更を保存

完了

検証作業者

Admin

検証作業者ID (短縮名)

検証作業者(フルネーム)

パスワード

Active Directory セットアップ

許可する権限 (チェックを入れて有効)

- ☐ オペレーターの追加と編集する権限
- ☐ キャリブレーション作業を行なう権限
- ☐ セットアップオプションを設定する権限
- ☐ OK/NG判定に切替える権限
- ☐ ISOグレード検証に切替える権限
- ☐ 検証規格の追加・削除を行なう権限
- ☐ 保存データの編集を行なう権限

図46: オペレーター管理ウィンドウ

3. [作業者の新規登録] ボタンをクリックします。
4. [検証作業者ID (短縮名)] フィールドに「windows」と入力します。文字は大文字と小文字が区別されません。
5. [検証作業者(フルネーム)] フィールドに「windows」と入力します。文字は大文字と小文字が区別されません。
6. ユーザ定義のパスワードを [パスワード] フィールドに入力します。
7. 有効なパスワードには少なくとも8文字が含まれます。AからZまでの少なくとも1つの文字。そして少なくとも1つは0から9までの数字を含めてください。
8. [オペレーターの追加と編集する権限] とその他の必要な権限を選択します。
(注意) [オペレーターの追加と編集する権限] 権限は必ず選択してください。

9. 「変更を保存」 ボタンをクリックします。



図47: 権限が選択された「オペレーター管理」ウィンドウ

10. 「Windowsのロックダウンを確認する」メッセージ(図48)が表示されますので「はい」をクリックします。

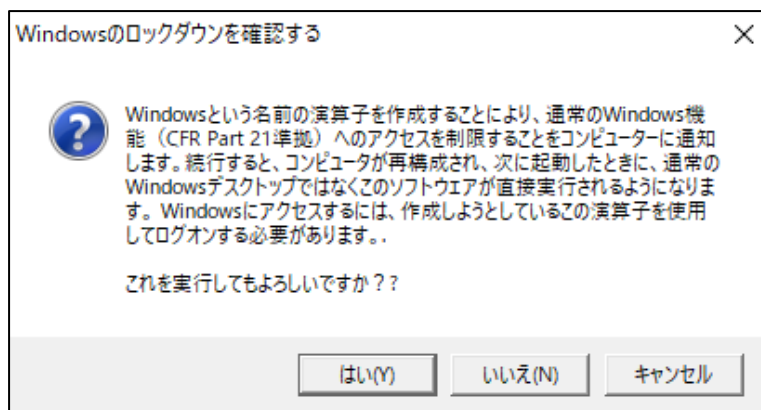


図48: 「Windowsのロックダウンを確認する」メッセージ

11. 「再起動が必要です」メッセージ(図49)が表示されますので[OK]をクリックします。

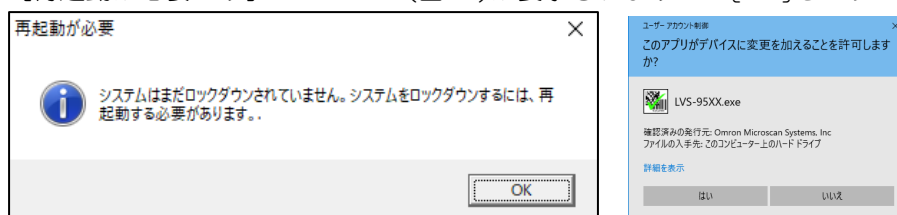


図49: 「再起動が必要」メッセージ

図49-2: 「ユーザーアカウント制御」メッセージ

(補足) 「再起動が必要です」メッセージが表示される前に上右図のメッセージ(図49-2)が表示されましたらシステム管理者にご確認頂き、問題がなければ「はい」をクリックします。

12. LVS-95XXソフトウェアを終了し、コンピュータを再起動します。

13. コンピュータは再起動するとロックダウンモードになり、すべての Windows® デスクトップ機能が無効になります。

（例）デスクトップは空白で、画面の下部にはタスクバーが表示されません（図50）。



図50: （例）ロックダウンモードの画面

システムをシャットダウンする

Windows®がロックダウンされているときにシステムをシャットダウンするには、以下の手順に従います。

14. 画面の右上隅にある赤いXをクリックします。LVS-95XXソフトウェアがシャットダウンします。
15. コンピュータの電源ボタンを押してシステムをシャットダウンします。

Windows® ロックダウンを解除する

オペレーティングシステムのロックを解除するには、次の手順に従います。

16. [初期画面] タブをクリックして、LVS-95XXソフトウェアからログアウトします。ログオフを確認するメッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。
17. いずれかのタブをクリックして、LVS-95XXソフトウェアに再度ログインします。
 - 検証作業員IDとして「windows」と入力します。
 - ユーザ定義のパスワードを入力します。
 - [OK] ボタンをクリックします。
18. [セットアップ] タブで、[検証作業員登録] ボタンをクリックします。
19. [検証作業員] リストから[windows]を選択し、[現在の作業員を削除] ボタンをクリックします。

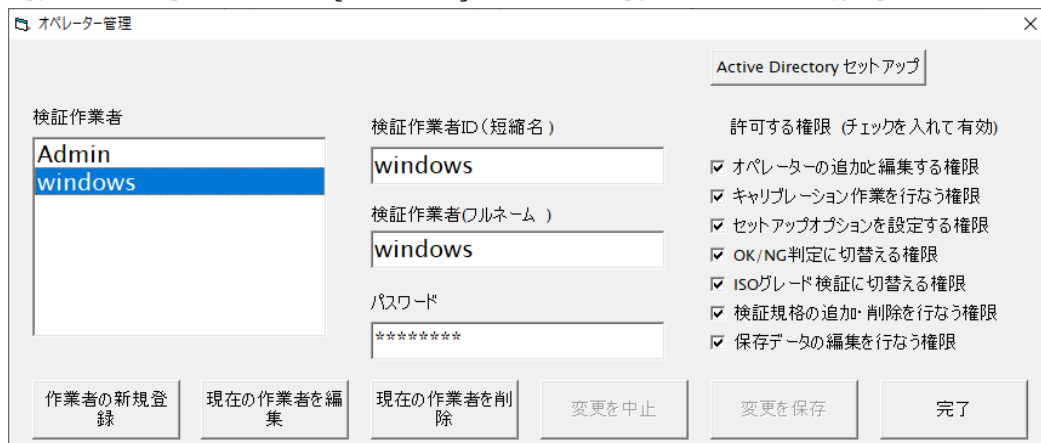


図51: [オペレーター管理] ウィンドウ

20. [オペレーターの追加と編集する権限] メッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。
21. [再起動が必要です] メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
22. 画面上のその他のプロンプトに従ってください。
23. 画面の右上隅にある赤いXをクリックして、LVS-95XXソフトウェアを閉じます。
24. コンピュータの電源ボタンを押してシステムをシャットダウンし、コンピュータを再起動します。
システムがシャットダウンしたら、コンピュータの電源ボタンを押してシステムをオンにします。
プロンプトが表示されたら、希望のオペレーターIDと名前を入力してシステムにログオンします。
25. Windows® デスクトップのロックが解除され、通常モードに戻ります。

アカウントパスワードのリセット

アカウントへのログイン試行時に誤ったパスワードを3回入力すると、LVS-95□□ソフトウェアはそのアカウントを無効化することにより、不正ユーザがアクセスできないようにします。そのアカウントをリセットして再度アクセス可能にするためには、アカウントの設定を変更する必要があります（パスワードの変更または権限の変更）。管理者アカウントは、3回の試行ルールの例外です。システムがすべての管理者アカウントをロックすることはありません。管理者アカウントがひとつしかない場合、システムは任意の回数のログイン試行を許可します。複数の管理者アカウントがある場合、3回以上の誤った試行が行われると、最後にロック解除されたアカウントを除くすべてがロックされます。

アプリケーション規格のショートカットキー

アプリケーション規格とは、軍用、病院、食品医薬品局(FDA)などの団体や業界などにより個別に策定されたプロトコルです。アプリケーション規格は、[セットアップ] タブ（[検証規格] セクション内）から選択するか、以下に示すデフォルトのショートカットキーを使用して選択します。キーボードショートカットキーを使用すると、LVS-95□□ソフトウェアの任意のタブまたは画面（[初期画面] 画面を除く）からいつでもアプリケーション規格を手早く変更することができます。

ショートカットキー	アプリケーション規格
SHIFT+F	FPMAJ
SHIFT+G	GS1 General Specifications
SHIFT+I	ISO/IEC 15415/15416
SHIFT+P	Postal (Intelligent Mail, PostNet, Japan Post)
SHIFT+D	DPM + UII + MIL-STD-130N
SHIFT+U	USPS Code 128

以下の各項を参照してください。

- アプリケーション規格用定義済みショートカットキーの表示
- アプリケーション規格用ショートカットキーの割り当てまたは再割り当て

アプリケーション規格用定義済みショートカットキーの表示

LVS-95□□ソフトウェアですでに定義済みのアプリケーション規格用ショートカットキーを表示するには、以下の手順に従います。

1. [データ管理] タブをクリックします。
2. 画面下部にある[クエリ] フィールドに以下のコマンドを入力します。大文字と小文字は区別されません。

Select ShortName, LongName, ShortCutKey From ApplicationStandards Where ShortCutKey > "" Order By ShortName

ヒント：本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符をチェックして同一であること（同じ方向を向いていること）を確認してください。引用符が同一でない場合は、引用符を編集して同じ方向を向いた同一の引用符にしてください。

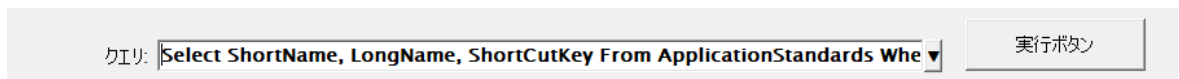


図59: 次のコマンドを入力: Select ShortName, LongName, ShortCutKey From ApplicationStandards Where ShortCutKey > "" Order By ShortName

3. [実行ボタン] をクリックします。
4. LVS-95□□ソフトウェアですでに定義済みのアプリケーション規格（ショートネームおよびロングネームを含む）とショートカットキーのリストが表示されます。

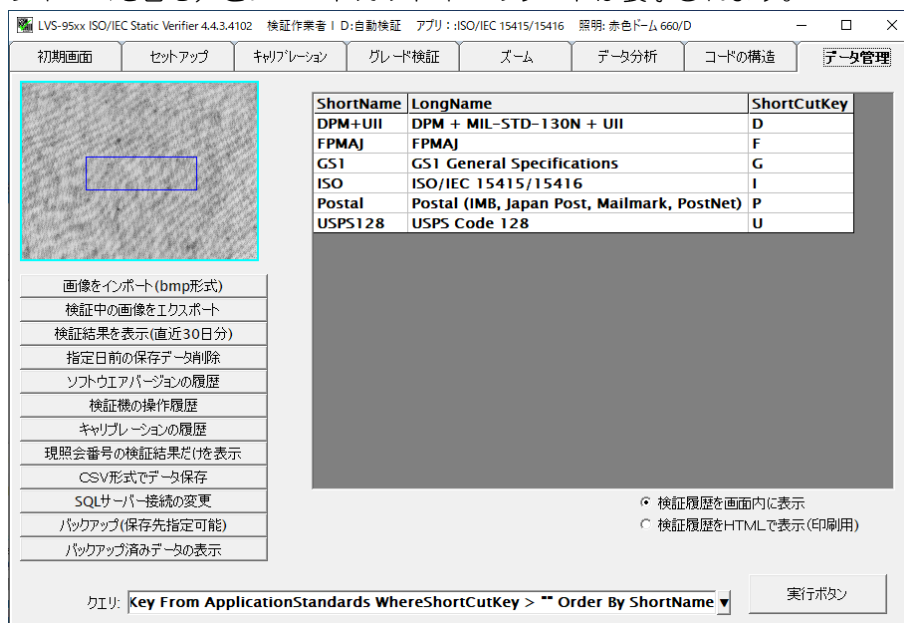


図60: すでに定義済みのアプリケーション規格（ショートネームおよびロングネームを含む）とショートカットキーのリスト

アプリケーション規格用ショートカットキーの割り当てまたは再割り当て

アプリケーション規格にショートカットキーを割り当てる場合、または「アプリケーション規格のショートカットキー」の項に記載されているデフォルトショートカットキーの割り当てを変更する場合は、以下の手順に従います。

1. LVS-95□□ソフトウェアに「admin」としてログオンします。
2. [データ管理] タブをクリックします。
3. すべてのアプリケーション規格とその名前の一覧を取得するには、画面下部にある[クエリ]フィールドに以下のコマンドを入力します。大文字と小文字は区別されません。
[Select ShortName, LongName, ShortCutKey From ApplicationStandards Order By ShortName](#)

クエリ: Select ShortName, LongName, ShortCutKey From ApplicationStandards Order By ShortName	実行ボタン
--	--------------------------------------

図61: 次のコマンドを入力: [Select ShortName, LongName, ShortCutKey From ApplicationStandards Order By ShortName](#)

4. [実行ボタン] をクリックします。

5. アプリケーション規格のリストが表示されます。リストには、アプリケーション規格のショートネーム（[ShortName]列に示す）、フルネーム（[LongName]列に示す）、割り当てられているショートカットキーが含まれています。垂直スクロールバーを使用すると、現在リストに表示されていないアプリケーション規格を表示できます。

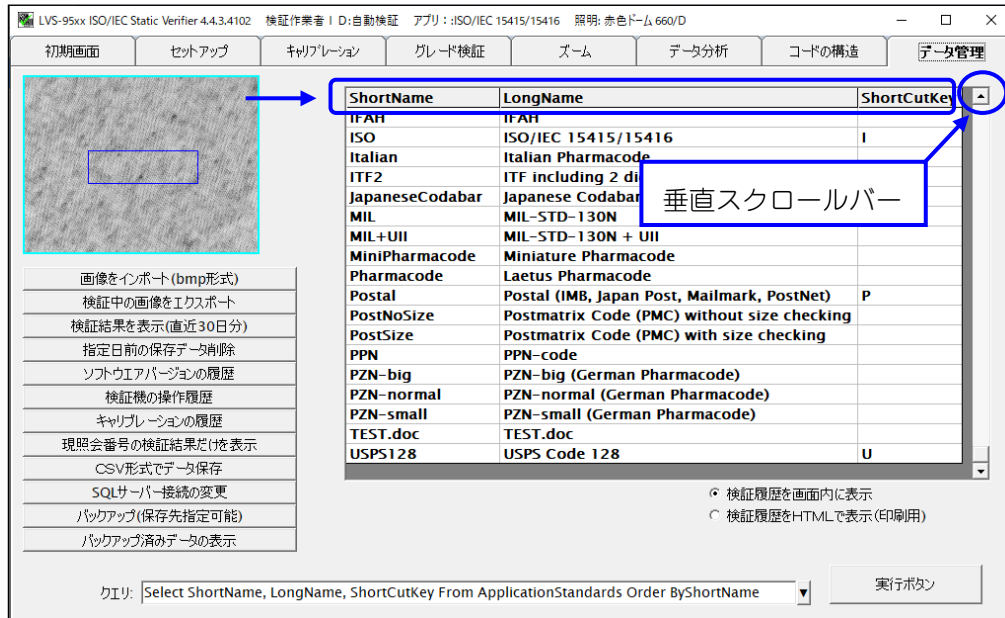


図62: アプリケーション規格（ショートネームおよびロングネームを含む）と割り当てられているショートカットキーのリスト

6. 目的のアプリケーション規格のショートネームを書き留めておきます。これは、次の手順でそのショートネームを入力するためです。
7. [クエリ] フィールド内のコマンドを削除して、以下のコマンドを入力します。大文字と小文字は区別されません。

Update ApplicationStandards Set ShortCutKey = "X" Where ShortName = "Y"

- 上記コマンドのXを目的のショートカットキーと置き換えます。A～Zの大文字のみを使用します。
- 上記コマンドのYを、前の手順で確認したアプリケーション規格のショートネームと置き換えます。

例: “Laetus Pharmacode” というアプリケーション規格に “Shift + L” というショートカットキーを割り当てるには、[クエリ] フィールドに以下のコマンドを入力します。

Update ApplicationStandards Set ShortCutKey = "L" Where ShortName = "Pharmacode"

本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符をチェックして同一であること（同じ方向を向いていること）を確認してください。引用符が同一でない場合は、引用符を編集して同じ方向を向いた同一の引用符にしてください。

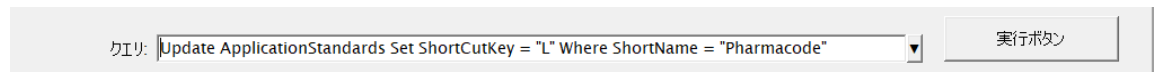


図63: 次のコマンドを使用して “Laetus Pharmacode” というアプリケーション規格に “Shift + L” というショートカットキーを割り当て: **Update ApplicationStandards Set ShortCutKey = "L" Where ShortName = "Pharmacode"**

8. 「実行ボタン」をクリックします。

- 処理が正しく行われると、「操作は成功しました」にメッセージが表示されます。

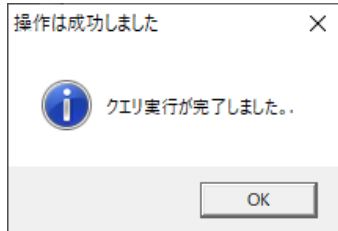


図64: 「操作は成功しました」メッセージ

- エラーが発生した場合:
 - Omron Microscan管理者のユーザ名とパスワードを使用してログインしていることを確認します。管理者としてログオンしていないユーザが「クエリ」フィールドでコマンドを実行すると、以下の「クエリエラー」メッセージ（図65）が表示されます。
 - 本書からクエリをコピーして貼り付ける場合は、引用符をチェックしてください。同一でない場合は（異なる方向を向いている場合は）、引用符を編集してクエリを再試行します。コマンドの構文が正しくない場合は以下の「クエリエラー」メッセージ（図65）が表示されます。

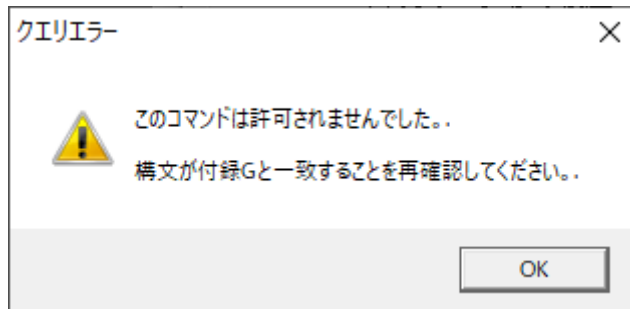


図65: クエリエラーメッセージの例

- 引き続きエラーメッセージが表示される場合は、当社または販売代理店まで解決方法をお問い合わせください。
9. LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインします。新たに割り当てたショートカットキーまたは割り当てを変更したショートカットキーを使用することができます。

2Dマトリックス型シンボル用のDecimal Grading

LVS-95□□ソフトウェアでは、2Dマトリックス型シンボルの評価にはデフォルトでDecimal Gradingが使用されます。Decimal Gradingでは、ISO/IEC 15415に基づくグレード評価よりも高い精度が得られます。ISO 15415に基づくグレード評価では、グレードは5種類のみです（0、1、2、3、および4）。

Omron Microscanは、ISO/IEC 15415に基づくグレード評価システムより高い精度とグレードの急な変化を回避するためDecimal Gradingを提供しています。たとえば、ISO/IEC 15415の体系は速度目盛りが10 mph刻みの速度計を備えた自動車であるとします。速度計からは、0 mph、10 mph、20 mph、30 mph、40 mphという速度の変化を読み取ることができます。Omron Microscanの速度計は、小数値を用いることにより、0 mph、10 mph、20 mph、30 mph、40 mphという大きな目盛りの間の速度を1 mph単位で示すことができます。

LVS-95□□ソフトウェアバージョン4.4.3以降、Decimal Gradingの評価のための2つのオプションが追加されています。2つのDecimal Gradingの評価オプションとは、ISO/IEC 15416:2016ベースのオプションとLVSレガシーオプションです。2つの方法は、グレードの小数部分の計算方法が異なります。LVSレガシーオプションは、ISO/IEC 15415:2011仕様の図1にあるレターグレードから数値グレードへのマッピングとの一致を維持するように設計されています。ISO/IEC 15416:2016規格は、レターグレードから数値グレードへのマッピングをサポートしなくなりました。

ISO/IEC 15416:2016ベースのDecimal Grading（デフォルト）

バージョン4.3.0から4.4.2のLVS-95□□ソフトウェアで小数の評価を計算する唯一の方法として、ISO/IEC 15416:2016の小数の評価方法が採用されました。このDecimal Gradingの評価方法は、ISO/IEC 15416:2016で説明されている1DのDecimal Gradingの評価スキームに基づいています。このドキュメントは1Dグレード評価にだけ適用されますが、1Dシンボルと2Dシンボルの両方でグレード評価の一貫性を保つために、LVS-95□□ではこの方法を使用できます。この方法を使用して計算されたDecimal Gradingの小数点以下を切り捨てることで、ISO/IEC 15415整数グレードとなります。

LVSレガシーDecimal Grading

ISO/IEC 15416:2016のリリース前に、LVSシリーズは、ISO/IEC 15415:2011規格の図1に示されているレターグレードマッピングをサポートするDecimal Gradingスキームを実装していました。この小数グレードの計算方法は、ISO/IEC 15416:2016で説明されている1Dシンボルの小数グレード評価スキームと一致する2Dシンボルの小数グレードを作成するために、バージョン4.3.0以降、一時的に廃止されました。2Dコードに小数のグレード評価を割り当てるための従来の方法は、この方法に親しんだ多くのユーザーのために復活しました。

この方法を使用して計算されたDecimal Gradingの小数点以下を丸めることで、ISO/IEC 15415整数グレードとなります。

Strict 15415 Integer Grading（厳密な15415グレード評価）

2つのDecimal Gradingオプションに加え、LVS-95□□には、Decimal Gradingを省略し、拡張機能を適用せずにISO/IEC 15415:2011のグレード評価方法に厳密に従うオプションもあります。ISO/IEC 15415では、評点を小数点以下1桁まで表現する必要がありますが、2Dマトリックス型シンボルを評価するための規定のメカニズムでは、整数の結果しか返されません。LVS-95□□ソフトウェアでは、これを「Strict 15415 Integer Grading」と呼びます。

グレード評価方法の比較

両方のDecimal Gradingスキームは、関連する数学演算が適用されると、「Strict 15415 Integer Grading」と同じ評価を目指します。ISO/IEC 15416:2016ベースオプションの場合は切り捨て、LVSレガシーオプションの場合は丸められます。これは、ISO/IEC 15416:2016の方法を使用して取得されたDecimal Gradingが、LVSレガシーの方法を使用して取得されたグレードよりも0.5GPA高くなることを意味します。

例として、[Symbol Contrast]を使用すると、3種類の方法のグレードは次のように比較されます。

Symbol Contrast					
% value	15415 Grade	15416 -based interpolation rules	'New' color scheme	LVS classic interpolation rules	LVS Classic color scheme
100%	4.0	4.0		4.0	
99%	4.0	4.0		4.0	
98%	4.0	4.0		4.0	
...	...	...		...	
72%	4.0	4.0		3.5	
71%	4.0	4.0		3.5	
70%	4.0	4.0		3.5	
69%	3.0	3.9		3.4	
68%	3.0	3.9		3.4	
67%	3.0	3.8		3.3	
...	...	...	...	...	...
57%	3.0	3.1		2.6	
56%	3.0	3.1		2.6	
55%	3.0	3.0		2.5	
54%	2.0	2.9		2.4	
53%	2.0	2.9		2.4	
52%	2.0	2.8		2.3	
...	...	...		...	
42%	2.0	2.1		1.6	
41%	2.0	2.1		1.6	
40%	2.0	2.0		1.5	
39%	1.0	1.9		1.4	
38%	1.0	1.9		1.4	
37%	1.0	1.8		1.3	
...	...	...		...	
22%	1.0	1.1		0.6	
21%	1.0	1.0		0.5	
20%	1.0	1.0		0.5	
19%	0.0	0.9		0.4	
18%	0.0	0.9		0.4	
17%	0.0	0.8		0.4	
...	...	...	...	...	...
2%	0.0	0.0		0.0	
1%	0.0	0.0		0.0	
0%	0.0	0.0		0.0	

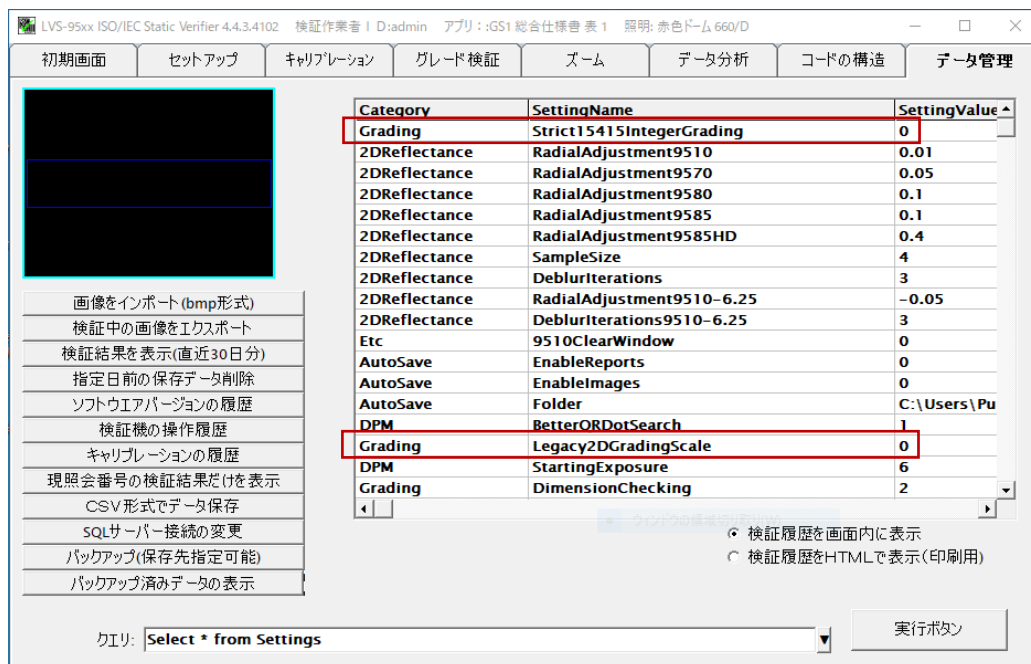
上の図には、評価グレードをレポートするときLVS-95□□ソフトウェアによって適用される配色も含まれています。図からわかるように、グレード評価方法に関係なく、一貫した色が測定に適用されますが、その測定のGPAは、選択した方法によって異なります。

2DマトリックスシンボルGPAグレードの計算方法の選択

グレード評価方法	各評価方法の選択の目安
Strict 15415 Integer Grading (厳密な15415整数グレード評価)	- 逸脱や拡張なく規格に準拠する必要がある場合 - Decimal Grading の付加価値が不要な場合
LVSレガシーDecimal Grading	- Decimal Grading により提供される追加の詳細および検討が必要な場合 - 規格の拡張機能を実装する柔軟性がある場合 - Decimal Grading が必要または支持するアプリケーション規格、あるいは従来のANSI レターグレードを参照するアプリケーション規格の場合 (例: GS1 General Specification, MIL-STD-130N, HIBC, AS-9132 など) - バージョン 4.3.0 より前の LVS-95□□ソフトウェアを使用して、同じ Decimal Grading の評価方法を続行する場合
ISO/IEC 15416:2016ベースの Decimal Grading	- Decimal Grading により提供される追加の詳細および検討が必要な場合 - 規格の拡張機能を実装する柔軟性がある場合 - LVS-95□□ソフトウェアバージョン 4.3.0 以降を使用して、Decimal Grading の評価方法を続行する場合 - ANSI レターグレードを参照しないアプリケーション規格の場合

2Dマトリックスグレード評価方法の選択

使用する2Dマトリックスのグレード評価方法は、[Strict15415IntegerGrading]と[Legacy2DGradingScale]を設定することで決定されます。これらの設定は、LVS-95□□ソフトウェアの「データ管理」タブで行います。



[データ管理] タブに移動し、次のように入力します。

Select * from Settings

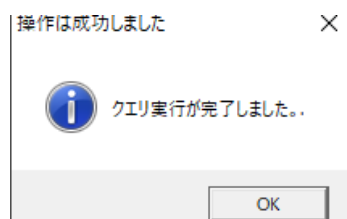
上のように [クエリ] フィールドに入力します。 [実行ボタン] をクリックします。これにより、このソフトウェア内の設定のリストを表示できます。[Strict15415IntegerGrading]および [Legacy2DGradingScale]設定が表示されている場所までスクロールします。評価方法を選択するには、次の表に従って設定を変更します。

設定値	2Dマトリックスグレード評価方法
Strict15415IntegerGrading = 1 Legacy2DGradingScale = 0	Strict 15415 Integer Grading (厳密な15415整数グレード評価)
Strict15415IntegerGrading = 0 Legacy2DGradingScale = 1	LVSレガシーDecimal Grading
Strict15415IntegerGrading = 0 Legacy2DGradingScale = 0	ISO/IEC 15416:2016ベースのDecimal Grading
Strict15415IntegerGrading = 1 Legacy2DGradingScale = 1	設定できません。 エラーメッセージが表示され、Legacy2DGradingScale設定 = 0 となります。

[Strict15415IntegerGrading]の値を1に変更するには、次のコマンドを入力し、[実行ボタン] をクリックします。

Update settings set settingvalue = "1" where settingname = "Strict15415IntegerGrading"

このコマンドは、引用符、スペース、単語を一緒に入力するなど、記載されているとおりに正確に入力してください。正常に実行されると、ソフトウェアは操作が成功したことを説明するポップアップウィンドウを表示します。



同様に、[Legacy2DGradingScale]は次のように変更できます。

Update settings set settingvalue = "1" where settingname = "Legacy2DGradingScale"

設定を目的の値に変更した後、コマンドを再度実行し、設定が表示されている場所までスクロールします。これらが正しい値に設定されていることを確認します。

Select * from Settings

Active Directory

LVS-95□□ソフトウェアは、オペレーターの権限管理にMicrosoft® Active Directoryを使用しています。LVS-95□□のオペレーターは、Microsoft®の認証に基づきオペレーター権限を付与され、LVS-95□□の権限はOmron Microscan固有のActive Directoryグループにおけるグループメンバーシップに基づき割り当てられます。Active Directoryによるオペレーターの権限管理が有効化されても、オペレーターが使用するLVS-95□□ソフトウェアのユーザインタフェースや操作は変わりません。

LVS-95□□ソフトウェアを起動するたびにActive Directory (AD)が有効になると、LVS-95□□システムはネットワークを介して指定されたMicrosoft® ADドメインコントローラーに接続します。LVS-95□□システムは、Active Directoryに定義されているユーザ名と権限を取得してデータベースのOperatorsテーブルを更新します。作成されたLVS-95□□ユーザは、AD Groupでは“AD LVS All Users Group” 設定に指定されています（詳細については次項を参照）。

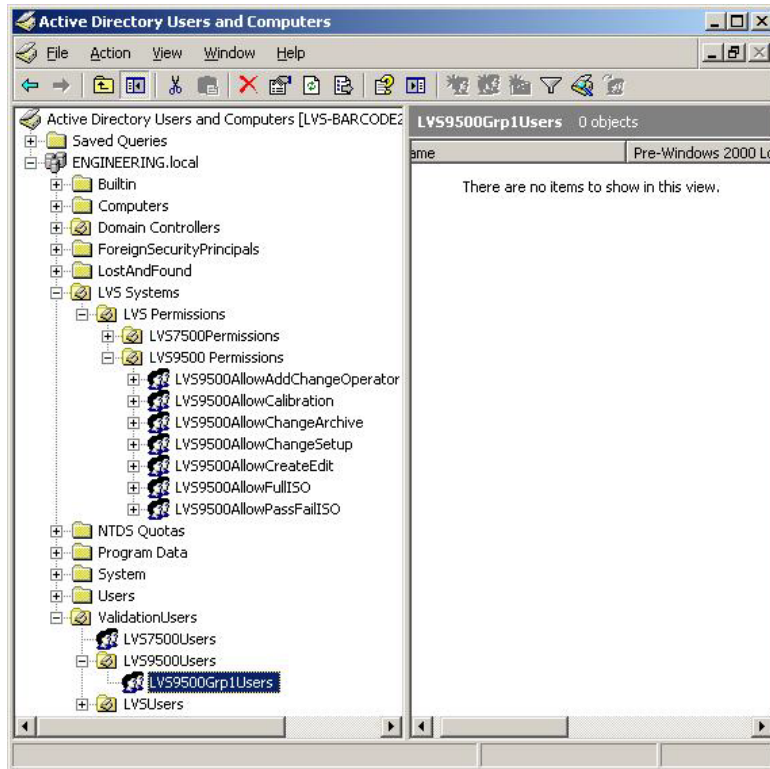
Active Directoryが有効になると、ユーザのパスワード、パスワードの有効期限、失敗したパスワード試行回数はローカルのLVS-95□□データベースには保存されません。Microsoft® Active Directoryのポリシーがユーザのパスワードの制限およびポリシーを管理します。ユーザがLVS-95□□システムにユーザ名とパスワードを入力すると、AD内の現在のユーザ名およびパスワードを使用して資格情報が検証されます。LVS-95□□システムの「オペレーター管理」画面（下図）を使用して現在のユーザとその権限を表示できますが、「作業者の新規登録」、「現在の作業者を編集」、「現在の作業者を削除」の各ボタンは無効になっています。ユーザがADで無効化または削除されると、LVS-95□□システムがまだ再起動されていなくても、そのユーザのLVS-95□□システムログインへのアクセスは即座に無効化されます。

デフォルトの管理者アカウント(admin)は、特殊な独自のログインです。ADにより管理されず、LVS-95□□システムのローカルデータベースに保管されています。新規にインストールされたシステムでは常に、デフォルトの管理者ユーザの[検証作業用ID]と[パスワード]はadminに設定されます。管理者ユーザのパスワードは、ネットワーク障害が発生してもシステムにアクセスできるように、LVS-95□□システムのローカルデータベースで保管されています。これにより、Active Directoryのユーザ認証なしにLVS-95□□システムを操作することが可能になります。Active Directoryが有効な状態では、管理者ユーザはLVS-95□□システムの[オペレーター管理] インタフェースを使用して変更可能な唯一のユーザです。管理者ユーザのユーザ名とパスワードは必要に応じて変更および削除できますが、管理者ユーザのユーザ名が変更または削除され、LVS-95□□システムとActive Directoryサーバとの接続が失われるかActive Directoryが無効化されると、Active Directoryにアクセスして有効化したりスタンドアロンモードでユーザを管理するユーザが存在しなくなります。

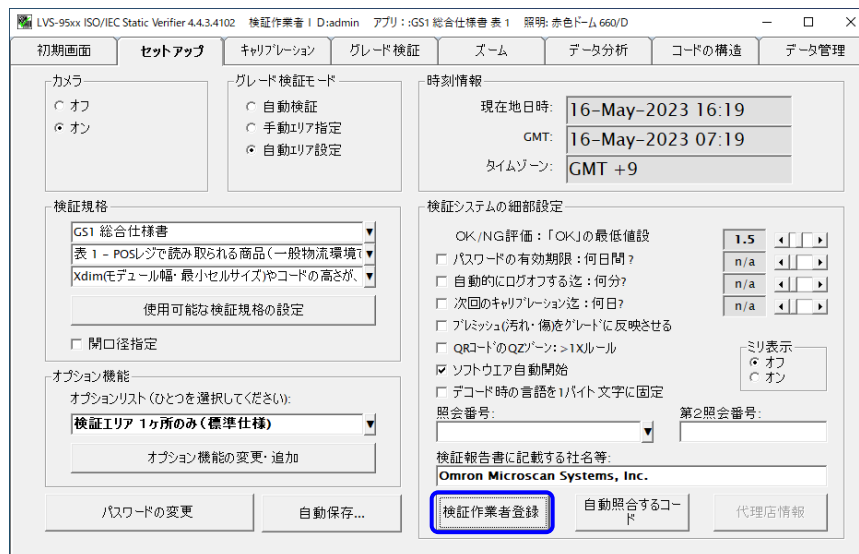
Active DirectoryでLVS-95□□システムユーザを管理することにより、認証および承認を一括して安全に記録することができます。ADにおけるすべての変更の制御は、AD Groupのポリシーとオーナーシップにより管理されます。

Active Directoryの有効化とオペレーター権限の管理

以下の手順を完了する前に、Microsoft® ADに必要なグループを設定する必要があります。以下は、下記の手順で示すOmron Microscan AD構成設定と一致するMicrosoft® AD環境の例です。使用しているAD環境および選択したグループ名によっては、入力内容が異なる場合があります。



1. LVS-95□□システムにログインします（「セットアップオプションを設定する権限」を付与されている必要があります）。
2. 「セットアップ」タブで「検証作業登録」ボタンをクリックします。



3. 「オペレーター管理」画面で「Active Directory セットアップ」ボタンをクリックします。

オペレーター管理

検証作業員

Admin

検証作業員ID(短縮名)

検証作業員(フルネーム)

パスワード

許可する権限 (チェックを入れて有効)

- ☐ オペレーターの追加と編集する権限
- ☐ キャリブレーション作業を行なう権限
- ☐ セットアップオプションを設定する権限
- ☐ OK/NG判定に切替える権限
- ☐ ISOグレード検証に切替える権限
- ☐ 検証規格の追加・削除を行なう権限
- ☐ 保存データの編集を行なう権限

作業員の新規登録 現在の作業員を編集 現在の作業員を削除 変更を中止 変更を保存 完了

4. 「Active Directory設定」画面で「Active Directory作業員管理を可能とします」チェックボックスをオンにします。「Active Directory設定」フィールドが表示されます。このチェックボックスをオフにすると、ADのユーザ管理が無効になります。

Active Directory設定

Active Directory構成セットアップ

☐ Active Directory作業員管理を可能とします

Active Directory設定

Active Directory使用許可を有効としたので、LVS 95XXのユーザの新規作成やメンテナンス権限をMicrosoft Active Directoryに移行します。
LVS 95XXのユーザー名は、LVS 95XXソフトウェアの作業員管理画面から閲覧することができます。しかし編集はできません。

閉じる ☐ 有効 Log File

5. 画面上の各フィールドに必要な事項を入力します。ADのユーザ管理を正しく有効にするには、[AD Server Name]以外のすべてのフィールドへの入力が必要です。[AD Server Name]への入力は任意です。

下図は、必要事項をすべて入力した「Active Directory設定」画面の例です。使用しているAD環境および選択したグループ名によっては、入力内容が異なります。各フィールドの詳細を下表に示します。各権限グループには、ユーザおよび、ユーザが含まれているその他のグループを含めることができます。

Active Directory設定

Active Directory構成セットアップ

☒ Active Directory作業管理を可能とします

Active Directory設定

AD Server Name (オプション) LVS-BARCODE2

AD ドメイン名 ENGINEERING.local

LVS Organizational ユニット ou=LVS95XX Permissins,ou=LVS Permisins,ou=LVS Systems

LVS All Users Group cn=LVS95XXGrp1 Users,ou=LVS95XXUsers,ou=ValidationUsers

Active Directory内のLVS許可グループ

オペレーターの追加と編集する権限	LVS95XXAllowAddChangeOperator
キャリブレーション作業を行なう権限	LVS95XXAllowCalibration
セットアップオプションを設定する権限	LVS95XXAllowChangeSetup
OK/NG判定に切替える権限	LVS95XXAllowPassFallISO
ISOグレード検証に切替える権限	LVS95XXAllowFullISO
検証規格の追加・削除を行なう権限	LVS95XXAllowCreateEdit
保存データの編集を行なう権限	LVS95XXAllowChangeArchive

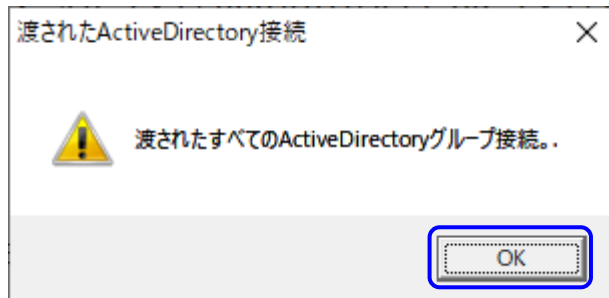
ADの設定をテスト 閉じる ☐ 有効 Log File

フィールド	内容
AD Server Name (オプション)	LVSの組織単位とユーザが配置されているActive Directoryサーバの名前を入力します。これは任意の値ですが、入力するとパフォーマンスが向上します。
ADドメイン名	Microsoft® ADドメインの名前を入力します。 例: lvs-inc.com、ENGINEERING.local
LVS Organizational ユ ニット	その他のLVS-95□□権限グループがすべて含まれているAD組織単位を入力します。データ入力フォーマットは、標準のActive Directoryオブジェクト命名構文に準拠する必要があります。これにより、ルートまで遡り組織単位のフルパス名を入力できるようになります。 例: ou=LVS9500 Permissions,ou=LVS Permissions,ou=LVS Systems
LVS All Users Group	LVS-95□□システムにアクセスするすべてのドメインユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。データ入力のフォーマットは、標準のActive Directoryオブジェクト命名構文に準拠する必要があります。以下の例で、n=LVS9500Grp1Usersがグループであることを指定しています。これは組織単位またはコンテナではなく、グループであることが必要です。これにより、必要であればLVS All Users GroupをLVS Organizational ユニット外の場所に定義できるようになります。LVS All Users Groupには、ユーザおよび、ユーザが含まれているその他のセキュリティグループを含めることができます。 例: n=LVS9500Grp1Users,ou=LVS9500Users,ou=ValidationUsers
オペレーターの追 加と編集する権限	LVS-95□□システムにおいて [オペレーターの追加と編集する権限] (管理者がその他すべてのシステムユーザに対して権限レベルを割り当てることできる) を付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowAddChangeOperator
キャリブレーション作業を行なう権 限	LVS-95□□システムにおいて[Allow Calibration]権限 (オペレーターがシステムの自動調整を実行できる) を付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowCalibration
セットアップオブ ションを設定する	LVS-95□□システムにおいて [セットアップオプションを設定する権限] (オペレーターが [セットアップ] タブ画面にアクセスして任意の

フィールド	内容
権限	パラメータを設定できる）を付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowChangeSetup
OK/NG判定に切替える権限	LVS-95□□システムにおいて [OK/NG判定に切替える権限]（オペレーターが合格／不合格レベルの設定を選択できる）を付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowPassFailISO
ISOグレード検証に切替える権限	LVS-95□□システムにおいて [ISOグレード検証に切替える権限]（オペレーターが [グレード検証] 画面ですべてのパラメータ値を表示できる）へのアクセスを付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowFullISO
検証規格の追加・削除を行なう権限	LVS-95□□システムにおいて [検証規格の追加・削除を行なう権限]（オペレーターが「マルチセクタ検証オプション」などの特殊機能を作成または変更できる）を付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。この権限はアップグレード機能のため、使用するには追加費用が必要です。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowCreateEdit
保存データの編集を行なう権限	LVS-95□□システムにおいて [保存データの編集を行なう権限]（オペレーターが [データ管理] タブで定義されているアーカイブファイルの場所を変更できる）を付与するすべてのユーザが含まれているADセキュリティグループを入力します。 グループはActiveDirectoryのLVSOrganizational ユニット内に配置されている必要があります。 例: LVS95XXAllowChangeArchive

6. 「ADの設定をテスト」ボタンをクリックして、上記のフィールドに入力した設定がADに定義されている設定と一致しているかをテストします。

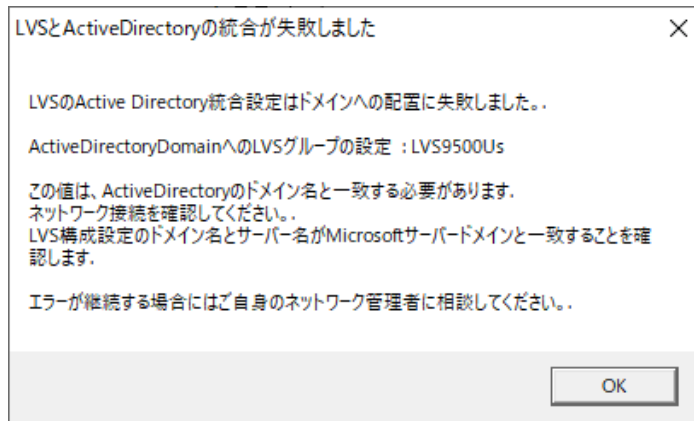
- A. 設定が一致している場合は、「渡されたActive Directory 接続」にメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックして次へ進みます。「Active Directory設定」画面が表示されます。「閉じる」ボタンをクリックします。Active Directoryが有効になります。



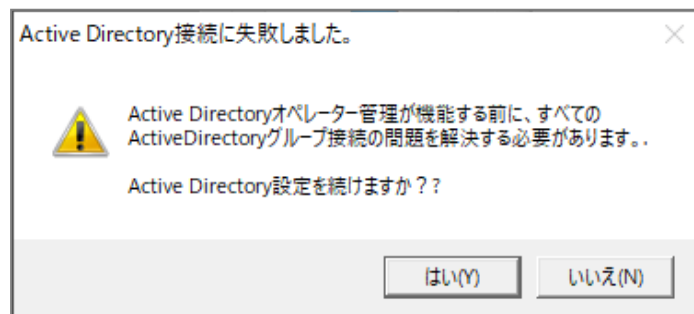
Active Directoryが有効になると、「Active Directory 作動」というステータスメッセージが赤色の文字で表示されます。



- B. 一致しない設定があれば、その設定が正しくないことを示すメッセージが表示されます。正しくない設定はメッセージに示されています。下記の不成功メッセージでは、[AD LVS All Users Group]の設定が正しく入力されていません（“LVS9500Us”はADに定義されている設定ではない）。[OK]をクリックします。



以下のメッセージが表示され、ActiveDirectoryグループ接続に関するすべての問題の解決が必要であり、AD構成の続行または終了を選択できることを示します。



- ADの構成を続行し、[Active Directory設定] 画面で必要な設定変更を行う場合は、
[はい] をクリックします。

- ADの構成を中止する場合は [いいえ] をクリックします。[Active Directory設定] 画面で入力した内容は保存されますが、ADは有効にはなりません。[Active Directory設定] 画面が閉じて、[オペレーター管理] 画面に戻ります。

検証レポートの画像サイズ

LVS-95□□ソフトウェアバージョン4.5.0.3014以降では、検証レポートに表示される画像のサイズを調整できます。[グレード検証] 画面で作成したレポートや、[セットアップ] 画面の[自動保存] 機能で保存した検証レポートの画像サイズを変更できます。

LVS-95□□製品はすべて、5メガピクセルの画像をキャプチャして分析します。生画像は、検証レポートに追加する際、メモリを節約するために画像サイズを縮小します。検証レポートに保存する際の生画像に適用される画像サイズを制御するために、ReportImageReduction という新しい設定が作成されました。ソフトウェアバージョン4.5.0.3014未満では、すべての検証レポート画像に「設定値10」が適用されていました。この設定値では、画像の詳細が失われる場合があります。オペレーターが画像の詳細とメモリ使用量のバランスを判断可能とするために、新しいパラメータが導入されました。検証レポート内の画像サイズは、検証レポートの他の要素の配置に影響します。レポートの最適な外観を決定するために、お客様にてご確認・設定をお願いします。

設定値	画像サイズ (pixels)
10	265 × 200
9	294 × 222
8	330 × 249
7	376 × 283
6	438 × 330
5	524 × 394
4	654 × 492
3	870 × 654
2	1575 × 978
1	2595 × 1950

検証レポートの画像サイズ変更方法

1. LVS-95□□に「admin」としてログオンします。
2. [データ管理] タブをクリックします。
3. 画面下部にある [クエリ] テキストボックスに、以下のコマンドを入力します。
大文字と小文字は区別されません。
`select * from settings`
4. [実行ボタン]をクリックします。
5. この操作によりソフトウェア内の設定のリストを表示できます。（下図参照）
ReportImageReduction設定が表示されている場所までスクロールします。新しい画像サイズに変更するには、前述の表から設定値を選択します。
この例では、ReportImageReduction設定は「6」に設定されています。

Category	SettingName	SettingValue
2DReflectance	DeblurIterations	3
2DReflectance	RadialAdjustment9510-6.25	-0.05
2DReflectance	DeblurIterations9510-6.25	3
Etc	9510ClearWindow	0
AutoSave	EnableReports	0
AutoSave	EnableImages	0
AutoSave	Folder	C:\Users\Public\Lvs-95xx
DPM	BetterQRDotSearch	1
Grading	Legacy2DGradingScale	0
DPM	StartingExposure	6
Grading	DimensionChecking	2
Camera	MotionTweak	15
Language	LastUsed	Japanese (日本語)
Report	ReportImageReduction	6
Query history	Recent0	select * from settings
Query history	Recent1	select * from settin
Query history	Recent2	Select ReportID, SectorID, LcITime, Ref
Query history	Recent3	Select ReleaseVersions.Version, Releas

6. ReportImageReduction設定値を変更する場合、画面下部にある [クエリ] テキストボックスに、以下のコマンドを入力します。
大文字と小文字は区別されません。
この例では、設定値を8としています。

`update settings set settingvalue = "8" where settingname = "ReportImageReduction"`

クエリ:

7. [実行ボタン]をクリックします。

処理が正しく行われると、[操作は成功しました]メッセージが表示されます。(図66)

処理が正しく行われなければ、[クエリエラー]メッセージが表示されます。(図67)

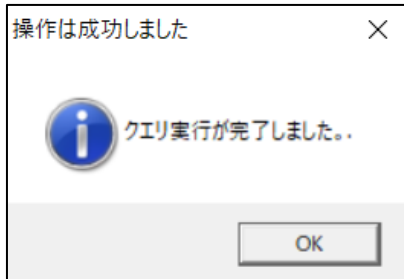


図66: [操作は成功しました] メッセージ

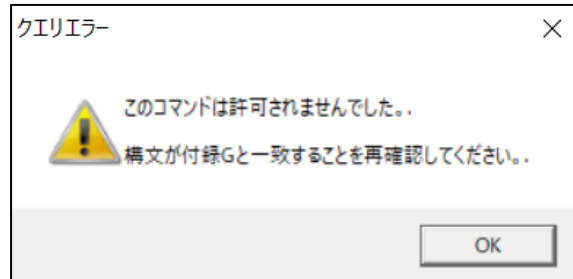


図67: [クエリエラー] メッセージ

Category	SettingName	SettingValue
Etc	9510ClearWindow	0
AutoSave	EnableReports	0
AutoSave	EnableImages	0
AutoSave	Folder	C:\Users\Public\Lvs-95xx
DPM	BetterQRDotSearch	1
Grading	Legacy2DGradingScale	0
DPM	StartingExposure	6
Grading	DimensionChecking	2
Camera	MotionTweak	15
Language	LastUsed	Japanese (日本語)
Report	ReportImageReduction	8
Query history	Recent0	select * from settings
Query history	Recent1	update settings set settingvalue = "8"
Query history	Recent2	update settings set settingvalue = "8"
Query history	Recent3	Select * from Settings
Query history	Recent4	select * from settin
Query history	Recent5	Select ReportID, SectorID, LcITime, Ref
Query history	Recent6	Select ReleaseVersions.Version, Releas

エラーが発生した場合は[OK]をクリックし、上記の手順6に定義されているとおり[クエリ]テキストボックスにコマンドを再入力してエラーを解決します。その際、コマンドテキストが正しく入力されているか確認してください。続いて、[実行ボタン]をクリックします。本書からクエリをコピーして貼り付ける場合、引用符を確認してください。引用符が同一でない場合（異なる方向を向いている場合）、引用符を編集してクエリを再試行します。それでもエラーメッセージが表示される場合、当社または販売代理店まで解決方法をお問い合わせください。

8. LVS-95□□システムからログアウトした後、ユーザ自身のオペレーターIDとパスワードを使用して再度ログインします。次回、シンボルのグレードを評価してレポートを印刷する際に、LVS-95□□検証レポートの画像サイズが変更されています。

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

製品に関するお問い合わせ先



0120-919-066

携帯電話・IP電話などではご利用いただけませんので、右記の電話番号へおかけください。

055-982-5015
(通話料がかかります)

受付時間：9:00～19:00 (12/31～1/3を除く)

クイック オムロン



オムロンFAクイックチャット

www.fa.omron.co.jp/contact/tech/chat/

技術相談員にチャットでお問い合わせいただけます。(I-Webメンバーズ限定)

受付時間：平日9:00～12:00 / 13:00～17:00 (土日祝日・年末年始・当社休業日を除く)

※受付時間、営業日は変更の可能性がございます。最新情報はリンク先をご確認ください。



その他のお問い合わせ：納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。



オムロン制御機器の最新情報をご覧ください。緊急時のご購入にもご利用ください。

www.fa.omron.co.jp

- 本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
- 本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物（又は技術）に該当するものを輸出（又は非居住者に提供）する場合は同法に基づく輸出許可、承認（又は役務取引許可）が必要です。

オムロン商品のご用命は